

481

特250

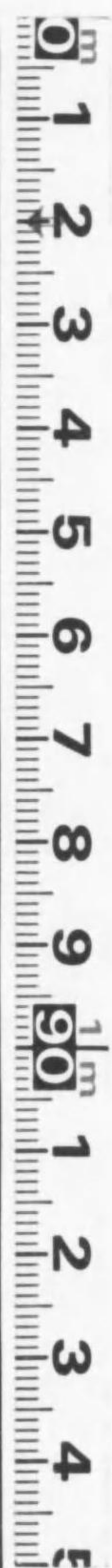
648

第七十九輯

失敗せる英印會談

廣域經濟  
研究機關

關稅研究所



始





特 250  
648



序

今次戦争が短期を終るか、長期に渡るかとの疑念は誰もが懐く感じである。人類福祉の爲に、此の世の中から不平等を掃したといふ小念願は誰もが持つ所である。併し掩された争闘には敢然立、く懲戒す

大の心感である。争功発前の米英の飽食と對曰。絶すやそのがあつた。其の米は、此の世から、これを警戒す。かなければならぬ。其見地か。期を覚悟しなればならぬ。と。は。現に、英が正面から米が側面から蓋染した。英印會談は、其の半面を物語るものである。英帝國の屋簷さあり、四億の民衆を有する印度である。此の印度をして自派陣営に立たしめることが出来ざれば、戦争に勝つと云ふことより、長期戦に導き得

昭和十七年五月 中流

と一とは出来たこと云ふのが英は未だの端らざり心事であつたらう。其の英印會談は物の見事に失敗したのである。即ち英國の遺印特使クリッソスの着印したのが三月廿二日、英印會談を開始したのが同廿五日、會談決裂が四月十日、クリッソスが離印、クリッソスの在印期間が廿一日、會談期間十六日である。クリッソスが、今日この言は、今談期間を二週間に切らしたとある。斯く此の會談を輕視したのが、抑その過誤であつた。印度は百年宿望の印度完全獨立問題を決するに、此の短時日を成すことが出来たら、其の通りになつた。併し印度の指導者等は此の問題を決すに當り、大東亞戦争の日本の大成果に、印度人の印度、アジアの印度、の血をまどらした結果である事は云ふまでもなからう。

著者 藏



一	長期戦覚悟の對米英態勢	一
二	英國の東亞侵略の経路	四
三	米國の東亞侵略の経路と大體	七
四	東條首相の二月十六日宣言	一〇
五	濠洲新西蘭に呼びかけた巨砲の声明	一四
六	米國の爲に火中の栗を拾ふフラジル	一七
七	東條首相の三月十二日宣言	一九
八	戦つて敗れざるなき米英	二三
九	印度志士面ホースの放送	二七
一〇	印度國內各派の對立状態	三〇
一一	英印會談に入る	三四
一二	會談英制の不利に傾く	三八
一三	英印會談の山見ゆ	四二
一四	東條首相の對印度聲明	四六
一五	印度國民會議派の動向	四八
一六	英印會談の難局と米國の態度	五二
一七	英制の印度國民會議派排跡	五五
一八	英の讓歩と印度側の交渉限界	五九
一九	印度側英國提案を拒絶	六三
二〇	英印會談全く決裂	六七

(一) 長期戦覚悟の對米英態勢

今度の戦争はとうしても長期に亘ると思ふ。何分にも世界の強國と強國との大戦争であるから短期で済まされる譯はない。

いまこれを大東亞戦争だけに見ても長くかゝらなければ收まる譯はないと思はれる節々が澤山にある。此の戦争は餘りあせつてはいけぬ。あせらずに、てきばさと皇軍の大戦果のあとを結實させて行くことに努力して行けば、戦争はいかに長くかゝつても少しも憂ふことはない。その意味から云つてどこまでも一面戦争、一面建設である。作戦即建設の方針を進めて行けば、五年か、十年か、十年か、十年か、二十年三十年、五十年、轉たまた、百年か、つても一向に差支がないことになる。大東亞の建設のための戦争であり、また建設のための戦争でもある。東亞の天地から米英の探取行為を一應掃蕩したと云ふだけでは不徹底である。どこ／＼までも米英勢力を驅逐しなせねばならない。今次戦争の目的も、米英の擧滅にあるのだ。また立つことの出発点まで打ちのめさなければならぬ。中途半端な講和は大の禁物である。

更にまたこれを歐洲戦争に見ても長くかゝる譯である。獨伊と英蘇米との戦ひは長期と見なせねばならない。獨逸の兩面作戦に對して、英蘇の攻撃作戦が進められ

るので、此の戦ひもさう簡單に片づく譯のものではない。何れにしても、大東亞戦争と歐洲戦争とは二にして一の關聯性をもつてゐるのであ



るから、立派に今次の東西兩戦争は「第二次世界大戦争」となつて出現してゐるのである。第一次世界大戦争は四年半にして終結したとは云へ、英の平和を得られなかつた。その結果が今次の大戦争となつたのであるから、その根柢すところは頗る深いものがある。好い加減なところで戦ひを終はらせようと思つても不可能である。假りにそこそこのところで終結するやうなことがあらうとも、そのやうな平和は長く長く譯はばならない。英の平和を持ち来らせようと思ふのなら、どうしても徹底的に戦ひ抜かなければならぬ。それが長期戦の覺悟が最も所要である。

我が國人は氣が短いと云ふけれども、滿洲事變以來連續して戦争をしてゐるのであるから、別段さうした短所を取り立て、云ふ必要はない。事實滿洲事變以來つ日本は一面戦争、一面建設である。滿洲建國以來滿十年の間、日本は今次の大東亞戦争の基礎を築いて来たのだと云ひ得るであらう。別にこれを豫期した譯ではないが、引續く支那事變によつて作戰即建設の實地を経験して来たやうなものである。滿洲國の今日の世界に誇る勇ましい息ふきの實状は日本が支那事變を續くる上にも、今次の大東亞戦争に直面しても、立派に精力供給源としての重要な任務を果してゐる。北邊の守りである滿洲國と、大戦果による南方共榮國とは、今後の長期戦を闘ひ抜く上に頗る重大なる役割を持つものと思ふはなけれぬ。

一徳國民が一丸となつて、米兵を撃滅すべく長期戦を覺悟してゐるが、併し着々断行すべきことは断行し、相亞ぐ驚異的戦果は益々世紀の進運を早めてゐる。

全く舊世界は去るの時に去るにあらすしてその由つて来るところがあつたのである。幾世紀に亘る歐羅巴人の東亞擄取の魔手は、如何に東亞民族に暗翳を投げかけたかも知れない。彼等歐米人は世界を我が物産にして、その云ふことその爲すことは何事でも通るものと云ふ傲岸な考へを植まつけてしまつた。それが大きな間違である。世界制覇の野望もさうしたところから萌え出して来たのである。故に、今次の戦争に於て戦つて来て、執拗な闘を續けてゐる。それだけに此の戦争はなかに止まない。彼等米兵人はなかに負けたとは云ふはめであらうが、その代り有らゆる卑怯なゲリラ戦術を弄して執拗に挑みかゝつて来るであらう。三月四日未明敵機約三十機が太平洋上の南島島を空襲（敵機七機を撃墜、交戦一時間にして撃退す）して来たなど或はまた四月十八日米機が我が本土を空襲して飛び去つたなどがその好適な引例であらう。

今後イギリスは米國と共に陣容の立直しに如何なる構想を拂ふかも知れない。無論建艦とか飛行機の製作に一段の努力を拂ふであらう。さうして有らゆる機會を捉へて反撃を試みて来るであらう。また米英獨特の外交手段を弄することもあらう。大東亞戦争だけの範圍でなく極東側、反極東側の鬼地から目的のためには其の手段を選ばぬ悪辣なる方途に出るかも知れない。

其の何らゆる場合を考慮して對米英方策を攻究しなければならぬ。想ひをそこにおいて考慮する場合、どうしても長期戦とならざるを得ないのである。長期戦となる



以上その長期戦に耐へ得るだけの長期の準備をせねばならぬ。即ち長期の建設である。資源の開発である。幸ひ南方友好関係國及び占領地域は資源頗る豊富であるから、夫等の資源を一日も早く資材としての有効なる働きをなし得るやうに具体化せしめなければならぬ。大東亞建設審議會が設立されたが、これに中央に於ける中樞機關として大所高所から着目、構想、實行と云ふ一大推進力としての大きな働きをするであらう。既に三月六日から實行に移つた南方開發金庫などは、その一大推進力の前行とも云ふべきもので、軍票が占領地域の金融の道をつけてゐるのであるから、軍票回收の役目を擔ふ機關と云ふことが出来るであらう。支那事變の時に實行し來つたやうに現地調辨の方式を以て、大抵のことは現地に於て調辨するやうにする方が、事を敏速に運ぶ上に非常に役立つのである。かうした考慮を全体に拂ふことは長期戦に耐へ、長期建設を進むる上に貢獻するところ頗る大なるものがあるのであらう。

## (二) 英國の東亞侵略の経路

長期戦を覚悟しながら米英を撃滅するに當つて英米の東亞侵略の跡を一通り記して置かなければなるまい。

歐羅巴人の東亞侵略は一五一一年葡萄牙の馬來半島マラッカ占領が發端である。英國はその葡國の開拓した東亞への道を後から現はれて來て強奪し、それを足場として亞

細亞侵略の爪牙を突き立て、來たのである。亞細亞先入者の葡國も僅々七十年にして一五八〇年西班牙の皇帝フィリップ二世に亡びさした。葡國を併呑せる西班牙は無敵艦隊の威力を發揮して世界海運の支配者として君臨することになつた。

然るに西班牙の屬領であつた和蘭が、その後西班牙と海上商戦を敢てすることになつたのである。それは裏面に在つて英國がジヨンブル一流の老練手段により、西班牙の内訌擾亂の魔手を揮つた結果によるものであつた。斯くして和蘭を巧妙なる手段によつて獨立國に仕上げて思を賣り、新興國の和蘭をして西班牙と海上商戦をなせしむべく盛んにこれを使喚した。斯くして西班牙が疲弊困憊状態に赴いた時を狙つて無敵艦隊に挑戦したのが英國である。斯くして制海權を把握した英國は次の手を出し援助して獨立をさせて和蘭を仆し、馬來半島マラッカを中心に来亞侵略の根據を据えたのである。次いで一六〇〇年東インド商會を設立して魔手を伸ばしたので、先入の葡萄牙、佛蘭西との間に幾多の侵略上の抗争が繰廣げられた。東インド商會のクライヴ、ヘイスチング等は此の印度大陸に英國の領土擴張を行ふに當り全く目的のために手段を選ばぬものがあつた。

和蘭を強壓して馬來全土をその支配下とした英國は太平洋、印度洋に臨む亞蒙地中海に於ける戰略の要衝新嘉坡を見逃す譯はなく、一八一九年英人ラッフルスによつて直轄地としたのである。即ち馬來半島を直轄植民地と九つの保護國に分ち、新嘉坡とマラッカとを直轄地として領有し來つたのである。



一方、英人が支那に着眼したのは、支那茶と支那絹にあつた。英國が此の貿易によつて歐洲で儲けてゐた額は一八一五年以來毎年數百萬磅に達すると云はれた。併し此の貿易は片貿易であるため、支那は賣るばかりで英國からは何も買はない。そこで英國は印度に産する莫大な阿片を支那に賣りつけようとした。が流石に支那人も此の魔藥の害毒を知り國法で禁止してゐた。英國はこれを武力に訴へて買はせようとした。阿片戦争はそのために起つたのである。其の結果、一八四二年八月二十九日香港に於て南京條約が結ばれ、英國は千二百萬兩の償金を取り上海始め五港を開港させた上に香港を割讓させて東亞の牙城たらしめたのであつた。一八五八年には天津條約、一八六〇年には北京條約の締結となつた。支那領土保全とは英國の權益を他に渡すまいとする美名であり、九ヶ國條約を固守してゐたのも全くそのためである。舊秩序を以て一貫すべく米英が専ら日本壓迫を以て終始しようとしたのは、さうすることによつて權益を飽満も擁護しようとしたからで、英國が重慶政權と結んだ裡面關係もそこにあつた。

英國が今の重慶政權と結んだのは一九一二年、武漢革命の結果、南京に進出した國民黨が中央政權を確立した前後からであるが、その中國統一を援助する代償として英國の勢力を支那に確立せしめようといふ謀略から出たもので、それが英蔣の腐心條の發端である。併し手は皮肉に出来てゐる。國民黨の民族自覺、國權恢復、失地回收の政策を表面から應援したまではよかつたが、却つて支那に打倒帝國主義運動に點火す

る結果となり、逆に英國が反蔣の單頭に擧げられることになつた。そこは老練なる英國である。此の反蔣運動を巧みに外して排日に轉向せしめたのである。それが支那事變勃發の種を撒き延いては今次の大東亞戦争の因を爲したのであるから、英蔣の關係は何處までも皮肉且つ悲惨に出来てゐる。

### (三) 米國の東亞侵略の徑路と天譴

イギリス本國の苛斂誅求より脱すべく獨立戦争を起し八ヶ年の苦闘の後一七八三年ヴェルサイユ條約により獨立を認められることになつたアメリカ合衆國は、建國の當初は十三州よりなかつたのだが其の後三十六年間に三十五州を擴張して四十八州としたのだから、恰も一年に一州づつを擴張して行つた勘定になる。一面には武力、他面ドルの魔力を發揮して領土の侵略を行つた徑路は英國と元たり難く等たり難きアングロ・サクソン一流の手段に訴へたものであることは掩ふべからざるの事實である。一八一四年にワエイク島へ大東亞戦争により我が有に歸し大島島と改稱しを手に入るや直に太平洋遠征艦隊を編成したのである。その目的は建國以來歐洲大陸への海外發展の道のないうアメリカとして、新大陸發展に藉口として東洋侵略の手段たらしめようとしたのである。第一代大統領ワシントンの提唱せる支那門戶開放と云ひ、第五代大統領モンローの宣言せる謂ゆるモンロー主義たる米大陸防衛と云ひ、其の本心は東亞侵



略の國定とも云ふべき謀略に外ならなかつたのである。右の遠征艦隊がマゼラン海峡を経て太平洋に進出し、サモア及びフィジー群島に通商保護協約をなさしめたのを、初めて多数の島嶼を探検測量して米領たらしむることに野望を逞しつたのであつた。アメリカのかうした野望は巧に阿片戦争にも便乗してゐる。即ち阿片戦争の際には重砲艦隊司令長官カーネーを特使して英支外交に介入して支那に好意を見せ對支進出の端緒を作つた。斯くして治外法權その他の特權を獲得したがそれには満足せず、太平洋北航路線上の飲料水及び石炭の國として、日本と朝鮮とを開港せしめよと云ふ傍若無人の議會に於ける決議となり、一八四六年（弘化三年）ピツドルの浦賀來航となつた。更に一八五三年（嘉永六年）ペルリの再度の浦賀來航となり三百年太平の夢まどらかなる徳川幕府を威嚇して神奈川條約締結にまで漕分け、ハリスが初代公使として赴任して來たのであつた。右のペルリは更に琉球に上陸して宮殿に押入り小笠原群島を植民據定地として父島二見港に海軍根據地建設計畫を樹立するなど、全く日本領土を侵略しようとする不逞を取つたのであつた。が併しその暴舉は英國側の抗議や大統領の更迭などによつて實現に至らずして止んだが、全く日本に反り天祐と云はなれぬばならず、大御威威の尊嚴の然らしむるところと云はなれぬばならぬ事柄であらう。

次に東亜の一地區をなすフィリッピンと米國との關係を記して置かなければなるまい。フィリッピンは一五二一年ポルトガル人マゼランが漂着して以來、和蘭人、西班

牙人、英國人が何れも領土と資源とを回つて鬭争を續ける中を一五六五年西班牙人レガスピロによつて遂に侵略され、當時の西班牙國王の名フィリッパを冠してフィリッピンなる名稱が附けられた。此の西班牙の壓迫と掠取に抗して一八八八年、愛國青年のイスパノ・フィリッピン同盟を皮切りに比島獨立運動の烽火が上り、東西戦争となるやこれに呼應した愛國者アギナルドの指揮する土民が全島に蜂起し、西班牙を撃破して三百年に亘る西班牙統治から脱することが出来た。そしてカビテの比島軍は獨立を宣言したが、パリに開かれた議和會議で比島人の期待を裏切り、米國の請託のため遂に米國領土とされ了つたのである。其の結果一九〇〇年全比島に飢へる星條旗の下で幾多祖國愛に燃ゆる比島の志士は此の新たな便毒者米國の烽火を浴びてその支那下とされ了つたのである。其の後に至り比島糖の無課税輸入に對する政馬糖業資本家の反対や比島人労働者の米國移住に對する國內労働團體の反対に端を発し比島獨立法案タイデーグスマグダファイ法案が可決され、一九四六年獨立することにしたが、それは早なる米國の國內的ゼスチニアに過ぎず、東亜侵略の軍事的標榜としての比島は寧ろ加速的に對日進攻作戦基地として米人の敵性魔手に擧げられ、大東亞戦争の火中に投ぜらるゝに至つたのである。アメリカの支那大陸侵略政策は十九世紀後半までは歐洲列強より立派なたがその後巧につけ入り英佛の廣東、北京占領に際しては天津條約で巧みに介入、日本威嚇のためアラスカを買収して大空軍基地たらしむる野望を遂げ果ては奸手段を弄して右連を併合し、パナマ運河一帯、政馬、ニカラ



グワ等を掌握して愈よ東亞侵略を旨とするところの太平洋作戦の重要據點を順次構成したのである。

尤もアメリカは日露戦争では日本に好意を見せはしたがそれは東亞問題に容喙しなげれば措かぬアメリカとして敢て不承認はなかつた。何んとなれば米國はハリマン鐵道王を使つて戦捷の主眼物とも云ふべき滿鐵を奪取せんと目論見があつたからである。併し大外交官小村壽太郎侯の電報的峻拒對策で畫餅に斷じたなどは有名な話である。米英の東亞侵略の虚懸手段は放棄に違がない。併し天は何時までも其の傲岸なる暴挙を許すものではない。週小評便せる日本の實力のために、今や見るも無残な大敗北を喫し、苦悶の奥最中に喘いでゐる。因果應報と云はうか、米英が今日の如き天譴を蒙ることは蓋し當然と云はなければならぬ。

#### (四) 東條首相の二月十六日宣言

東條首相は第七十九議會再會の一月二十一日貴衆兩院本會議に於て大東亞國建設の第一次宣言を發表し世界に大なる反響を興へたが、新嘉坡陷落の公報によつて特に聞か小た二月十六日の貴衆兩院本會議閉會勞頓發言を求め、新嘉坡陷落が世界秩序の建設に及ぼす畫期的意義並に之を契機とする入紘一守の大精神に基く我が雄渾なる國策につき大膽率直に宣言するところあつた。その中で新西蘭をも共榮國内に包圍したこ

とは非常に注目を惹いた。次にその要旨を記すことにする。

長くも宣戰の大詔發せらるゝや開戦勇頭忽ちにして米英艦隊の主力を屠り僅か二旬にして香港を、三旬にしてマニラを、而して七旬を出でずして新嘉坡を攻略し、茲に米英兩國の多年に亘る東亞侵略の三大據點は奪げて我が占領するところとなつた。一方ボルネオ、セレベス、ニューブリテンなどの要衝も悉く我が掌中に落ち、更に蘭印艦隊の主力は我が撃滅するところとなり、今や皇軍は渺茫大なる地域を壓して人類史上未だ曾て見ざる大規模の作戦に従事しつゝ、あるのである。

此の赫赫たる戦勝は御後威の下、皇軍將兵の勇戦奮闘の賜に外ならないのである。私は茲に家を忘れ、身を忘れて護國の礎となつた英靈、遠く異域にあつて或は傷つき、或は病を得たる傷痍將兵、陸に海に並々ならぬ勞苦と危険とを克服して奮戦しつゝ、ある勇士たち而してまた夫を、子を、兄弟を戦線に送り彼らをして遺憾なく活躍せしめつゝ、その留守を守り、或は此水を助け、あらゆる困難に堪へ忍び御後奉公の誠を致しつゝ、ある同胞諸君に對して深甚なる感謝の意を表する次第である。屢言せる如く大東亞戦争の目標とするところは我が華國の大理想に淵源し、大東亞の國家、各民族をして各その所を得しめ皇國を核心として道義に基く共存共榮の新秩序を確立せんとするにあるのであつて、米英諸國の東亞に對する態度とは全くその本質を異にするものである。今や嘗つて米英の東亞侵略壓制の根據であつた新嘉坡及びその他の要衝は大東亞諸民族のために秩序の建設と防衛の據點として取りな



さ前途の希望と榮養のもとに蘇りつゝあるのである。而して香港、北島、マレー半島の如きはすでにその新建設に、向つて實質なる巨歩を踏み出してをるのである。私は此の畫期的の機會に於いて關係各民族及び各國家に對し帝國の眞意を重ねて披瀝したいと慰ふのである。

東條首相は論旨を、ビルマ人のビルマ建設に向け緬甸の首府蘭貢陥落事前に次の如く呼びかけたことは有意義である。

皇軍は今やビルマ方面に於ても着々として攻撃の歩を進め、その要衝は逐次我が手に歸してゐるが、帝國のビルマ進攻の眞意は英國の軍事據點を覆滅すると共に米英の援將の通路を遮断せんとするにあるのである。素より緬甸民族を敵とするものではない、従つてビルマ民族にして既にその無力を暴露せる英國の現状を正視し、その多年の桎梏より離脱して我れに協力して來るに於ては帝國は欣然としてビルマ民族の多年に亘る宿望即ち、ビルマ人のビルマ建設に對し積極的協力を與へんとするものである。

と帝國のビルマ進攻の眞意が英國の軍事據點を覆滅すると共に米英の援將の通路を遮断せんとするにあつて、ビルマ民族を敵とするものでないことを明確にした。一轉してインドに呼びかけ、

数千年の歴史と光輝ある文化の傳統を有する印度もまた今や英國の暴虐なる壓制下より脱出して東亞共榮國建設に参加すべき絶好の秋である、帝國は印度がインド人

のインドとして本來の地位を回復すべきことを期待し、その愛國的努力に對しては敢へて援助を吝しまざるものである。若しそ小印度が此の歴史と傳統とを顧みず、その使命に未だ覺醒することなく依然として英國の甘言と好餌とに迷ひその頭快に従ふに於ては私は茲に長く印度民族再興の機會を失ふべきを憂へざるを得ない。と今や英國の暴虐なる壓制下より脱出して東亞共榮國建設に参加すべき絶好の秋であることを告げて覺醒を促し、更に一轉してインドネシア民族に呼びかけた。

水英と提携し敢て抵抗を續けるオランダ軍に對しては帝國は徹底的にこれを覆滅せんとするものである。併しながらインドネシア民族にして我が眞意を諒解し大東亞建設に協力し來るに於てはその希望と傳統とを尊重し同民族を米英傀儡たる和蘭亡命政府の壓制下より解放しその地域をインドネシア人の安住の地たらしめんとするものである。

と東條首相は論断した。その和蘭軍約九萬三千は三月九日午後三時、米英濠軍約五千と共に全面的に無條件降伏したのである。これによつて東條首相が「帝國は徹底的にこれを覆滅せんとするものである」と聲明した通りになつたことを事實に於て證明したものである。皇軍のシマバ島上陸後僅かに九日にしてチャルター蘭印總督、テル・ボールテン蘭印最高司令官以下を無條件にて降伏せしめ、全蘭印を裁定したことは、インドネシア民族に非常な感銘を與へたものである。



(五) 濠洲・新西蘭に呼びかけた巨砲の聲明

東條首相は再轉して濠洲及び新西蘭に呼びかけた。

濠洲及びニュージージーランドもまたたのむべからざる米英の援助を期待せる無益な戦争はこれを避くべきである。今やこれら民衆の福祉は一にかつてこれら政府が帝國の真意を理解し、公正なる態度に生くるや否やに關するのである。歐洲に於ては香港に於て、更にマレー半島に於て、イギリスが如何に濠洲軍及びニュージージーランド軍將兵を利用し、如何なる處遇を與へつゝあるかは、濠洲及びニュージージーランド民衆自ら十分にこれを知得してゐるはずである。

此の表心を披歴せる東條首相の呼びかけた對し、濠洲の述夢は不だに醒めやらぬものがあるのは甚だ遺憾に堪へない。東條首相は更に再轉して

解て眼を支那大陸に轉ずるに新嘉坡の陥落により英米の豪語せる對日包圍陣の一角は全く崩潰し、而も皇軍破竹の進撃により謂ゆるビルマルルート遮断の日は近きにある。斯くして重慶改權は正に全く孤立無援の苦境に陥らんとしてゐる。此れに對し帝國は断乎として最後の鐵槌を加へんとするものである。然しながら度々申述べた通り、帝國の中華民國々民に對する態度は飽までも元希と考へ相寄り相扶けて共に大東亞建設を行はんとするものである。従つて一部頑硬なる指導者に誤られて大東亞大陸の光輝あるこの時機に於て中華民國衆が依然として塗炭の岩に陥つてゐること

は帝國としてまことに遺憾に甚へない。

と重慶改權指導者の迷妄を指摘し、それに對しては最後の鐵槌を加へるが、中華民國國民に對する態度はあくまで元希と考へ相共に大東亞建設に邁進するものであると帝國の態度を闡明し、更に論鋒を中立國方面に向け

南米および其の他の中立國諸國については私はこれは諸國が必ずや帝國の真意を瞭解し、米英に牽制せられて火中の栗を拾ふが如き愚をなさざることを確信するものである。

と南米その他の中立國に對しても意を配り、米英のために火中の栗を拾ふが如き愚をなさぬやうに注意したことは、中立國をして動向をあやまらしめためたため大局的見地に立つたもので、帝國の真意を瞭解せしめおく手段として當を得たものと云はなければならぬ。

米英側は常にデマ放送を行つて、中立諸國を感亂せしむることには大重になつてゐるので、時にはかつして帝國の真意を告げ、その迷夢に陥らんとする中立諸國を事前に覺醒せしむるの要がある。若しあやまつて米英のために火中の栗を拾ふが如きことあれば、我が國が迷惑に感ずるのみならず、その中立國こそ詰らぬ派目に陥ることになるので、自他双方のために、事前にこれを防止するの方途として注意することはまことに賢明なる舉措と云はなければならぬ。

東條首相は更に論旨を一轉して盟邦諸國の協力と好意とに謝意を表し



更に私はこの機會に盟邦諸國より帝國に寄せられたる協力と好意に對し、國民と共に深甚なる謝意を表すものである。即ち、滿洲國、中華民國政府、泰國及び佛印などが常に帝國と苦をわかち樂しみを偕にせられ、大東亞共榮國建設に精進せられつゝあることは眞に欣快とするところである。また獨伊を初め歐洲盟邦諸國が帝國と切實に協力呼應し赫々たる戰果を擧げいよ、世界新秩序建設に努力せられつゝあることは眞に感銘深きものがある。こゝにその勇戰奮闘に對し衷心より敬意を表すると共に此の上とも一層その戰果を擴充せられん事を祈つてやまない。今やシンガポールは陥落した。併しこれは大東亞戰爭遂行の一段階を築き上げたにすぎない。この際國民が戰捷に驕り氣を弛むが如きことが断じてあつてはならない。戰爭は正に今後にある。即ち帝國は此の一大戰捷を契機とし、盟邦諸國との提携を緊密にし、更に積極的作戰を遂行し、以て米英及びその追隨勢力を徹底的に擧げんとするものである。私は茲にシンガポール陥落の報に接し、全國民と共に皇軍の戰勝を表心より慶祝すると共に、上下心を一にし、一途國を擧げて新なる國威と決意の下によく征戰の目的を完遂し以て聖慮を安んじ奉らんことを誓ふ次第であると結んだ。此の第二次東條聲明は全世界に大なる反響を喚んだ。就中印度、暹洲、新西蘭に呼びかけて「今や大東亞共榮國參加の秋だ」と巨砲の如く注意を喚起したことは、實に一大宣言であつたと云はなければならぬ。次にビルマをして「ビルマ人のビルマ建設」を感應したこと、それに次で特車すべきは南米に呼びかけて「火中の粟を拾ふが如きことがあつてはならぬ」と云つたことである。

### (六) 米國の爲に火中の粟を拾ふブラジル

然るに南米の中でも親日國と見られてゐたブラジルが遂に米共に牽制せられて火中の粟を拾ふの慮を致したのには遺憾至極である。それに對し帝國政府は三月十三日同政府に嚴重抗議を發し成行を嚴重監視中であつたが、同十九日次の外務當局談を發表した。

#### 外務省當局談

ブラジル政府は最近北米統略に従事しをる同國商船若干隻が大西洋に於て擧げせられたることを理由とし、同國政府及び同國人の被れる損害賠償に充てるためと稱して同國在留の權輿國人の財産をその額に應じ一定の割合を以て沒收すること、なれる趣なるが、かかる暴舉に制裁せられ同國各地に於て群衆の反極端暴動起れりとの報道あり、今日までのところ日本人の被れる損害は不明なるも帝國政府はブラジル政府のかくの如き不當なる措置を絕對に容認し得ず、且つ日本人に對する暴動を黙視することを得ざるを以てブラジル政府に對し次の如く抗議をなし成行を嚴重監視中なり

一、戰爭の餘波をうけ交戰國にあらざる國の船舶が擧げの憂目にあふものあるを聞く



時氣の毒なるも、ブラジル政府が大西洋上に於て交戦國と交通の途上にある自國船の沈没せるに對し、代償に當つるためブラジル在留極軸國人の財産の一部を没收する旨の大統領令を發し、即日施行するに至れるは不當極まりと云ふべく、右は帝國政府の純奇に容認し得ざるところなり。またブラジル政府の右不當措置に利執せられ同國在留の極軸國人に對する伯國群衆の暴動發生を見た事は、帝國及び帝國の支配下にある地域に在るブラジル人に對する我が方の寛大なる處置にも照らし懸念に堪へざるところなり。

二、帝國政府はブラジル在留人が同國の法律を遵奉して平和的に働き同國の産業開發に多大の貢獻をなし來れるを以て、前記の如き暴擧を以て酬いられたることを眞に遺憾とするものにして、本件大統領令及び暴動の結果いかなる事態を生ずるともその責任は一切ブラジル政府の負ふべきものなることをこゝに警告するものなり。以上の如き伯國政府に對する帝國政府の抗議に對し、同國は今後如何なる對策を取るであらうか、それが注目に値する點である。今や世界は長期戦下にあるので國際間に幾多の紛糾問題が惹起するのを免れずとするも「ブラジル在留邦人が同國の法律を遵奉して平和に働き同國の産業開發に多大の貢獻をなし來れる」にも均らず、且つは「帝國及び帝國の支配下にある地域にあるブラジル人に對する我が方の寛大なる處置」を講じざるのに照らしても、其の不當なることは歴然たるものである。現在ブラジル在留の邦人は二十五萬人と稱せられてゐるが、其の移住の發端は日露

戦争の當初からである。當時のブラジルは人口稀薄、天然資源は千石の眠りを續けてゐたので、同國政府は世界各國人の入國を大いに歡迎したものである。當時日本政府は人口過剩對策として盛んにブラジルに移民の宣傳をした結果、明治四十一年拓土第一陣として七百八十餘名の邦人が移住したのであるが、それを大移住の切っ掛けとし、爾來大正、昭和となるにつれ、南米の認識も正當化し續々雄飛するやうになつて今日の大をなすに至つたのである。邦人の内凡の九〇%まではサンパウロ州で農業に従事してゐるが、何れも米、棉花、黄麻、養蠶、蓄牛などの改良獎勵に苦闘を續け、殊に米などは外國へ輸出して好評を博してゐるほどと云はれてゐる。去る一月二十八日ブラジル政府が極軸諸國との外交、通商關係断絶を宣言してから今日あることは覺悟しなけれはならぬところであつたが、アメリカの援助をうけて敵性を發揮し大恩ある邦人に不法壓迫を加へるなどは言語に絶する非道と云はなけれはならぬ。前記のブラジル政府に對する我が政府の嚴重抗議に對し果して反省するか否や、反省せずして世界紛争の波紋を大ならしむべく米國のために火中の栗を拾ふの愚たるや憐むべきである。

(七) 東條首相の三月十二日宣言

大東亞戦争がレンガボール陥落を以てその第二段階に入つたので、二月十八日を以て戦捷第一次祝賀日として諸行事を繰展げたが、爾後二旬餘の三月八日ビルマの首府



蘭員を屠り、翌九日全蘭印を裁定するに至った。たゞ對日包圍陣は益に全く崩れ去った。そこで三月十二日、休會中の帝國議會は本會議を開いて、此の赫赫たる戦捷を感謝慶祝すると共に、全國民が一丸となつて大東亞戦争の畫期的新段階へ總進軍すべき決意を示した。此の日貴族院は午前十時、衆議院は午後一時、何れも本會議を開き、東條首相より發言あり、相つゞ大戦果の世界的意義を明らかにし、これに對處すべき内外國策の展開を堂々中外に闡示して國民の協力と奮起とを要請するところあつた。續いて東條兼攝陸相、島田海相より新嘉坡陥落以後の戦況を報告して戰場に多大の威銘を與へた。これに對し貴族院は各派共同提案の皇軍感謝決議案を上程、全會一致可決、衆議院も「蘭印裁定並に蘭員攻略につき祝賀感謝」の決議を上程、満場一致可決、陸海兩相より謝辭があつて軍民一如の感謝裡に大々議事を終つたのである。當日の東條首相の聲明は前の第一次、第二次聲明同様、全世界に甚大なる反響を喚んだ。次にその第三次東條聲明の大意を記すことにしよう。

既に大本營より發表せられた通り、九日ジャバ全島の制圧成り、こゝに蘭印全土はその死命を制せらるゝに至り、またビルマ最大の據點ラングーンも八日つひに陥落した。戦況については陸海軍當局より報告があるが、私は此の機會に於て重ねて所信の一端を披瀝し得ることを欣快とするものである。私は去る一月廿一日、ついで二月十六日日本議場に於てわが眞意を諒解せず徒らに無益の抵抗を續けつゝある蘭印軍を徹底的に撃破し更にビルマ方面に於ける英國の

軍事據點を覆滅し、米英の接濟通路を遮断せんとする帝國の固き決意を表明した。而して今や蘭印最後の據點ジャバ島も三月一日皇軍の上陸するところとなり、五日首都バタビヤ、ついで要衝スラバヤもまた陥落し、ついに九日に至り蘭印政府は無條件にわが軍門に降伏し、茲に略蘭領インドの裁定を終つたのである。

一方ビルマ方面に於ては皇軍は長驅突進を越えてビルマ平野を席卷しつつ八日英國の東亞侵略の一大據點であり、また米英の將援助の唯一の門戸たるラングーンを陥れ、所謂ビルマルートは皇軍の威力の前に完全に潰滅せらるゝに至つたのである。かくて僅か二十日にして帝國政府のさきに表明せるところは悉く現實の貌となつて現はれたのである。斯くの如く短時日の間に蘭印を制し、ビルマの要域をわが手に收むるに至つたことはこれ偏に御統威の下、わが忠勇無比なる皇軍將兵の勇戦奮闘の賜であつて誠に御同慶に堪へない次第である。今や皇軍により米英の羈絆より解放せられたる香港、マニラ、昭南港その他の要衝に於ては民衆は皇軍に全幅の依頼を寄せ、新しき建設に向つて早くも運しき歩みを續けてゐること、誠にも力強き眼りである。

東條首相は論旨をインドネシア人並にビルマ人の上に向けて深き同情を寄せ、更に「象洲、印度に重ねて呼びかけた。今私はインドネシア人及びビルマ人が多年に亘り、英蘭の压制下に呻吟し來れる苦惱に對して深き同情を表すると共に、新たに大東亞建設の一員として新しき發足を



遂げ、今後いよ／＼正しく繁栄せんことを念願するものである。蘭印及びブラング  
ルの陥落により濠洲及び印度は直接我が武力の前に立つことになつたのである。私  
は此の機会に於て重ねて濠洲及び印度に對し帝國の所信を聲明したいと思ふ。地  
域廣大なるに均らず人口極めて稀薄であり、而も米英と隔絶せる濠洲が我が精強なる  
武力に對し自己を防衛し得ざることは濠洲人自ら知悉してゐる筈である。従つて國  
民の福祉を企うすために今日いかなる態度に出づべきや、は自ら明かなる所である。  
濠洲が今にしてその態度を改めずんば今日の蘭印の運命はこれよりも直さず明日の  
濠洲の運命となるのである。私は此の際濠洲が情實と因縁とに拘泥することなく眞  
の事態を究めて天の命ずるところを正視し、速かにその最も重大なる暴指を止せん  
ことを期待するものである。

と東條首相が言葉を盡して濠洲のために論じ、「わが精強なる武力に對し自己を防衛  
し得ざることは、濠洲人自ら知悉してゐる筈である」と切言したことは、濠洲指導者  
として大いに熟慮玩味しなればならぬ點だと思ふ。東條首相は四億の印度民衆の上  
に思ひを馳せ

印度民衆に對しては帝國は素よりこれを敵とするものではないのである。然しながら  
ら帝國は米英勢力を徹底的に破砕せんとする從來の決意には毫も變化なきことを重  
ねて茲に表明するものである。今や「ビルマ人のビルマ」は出来上らんとしてゐる  
印度四億の民の多年の宿望である。「インド人のインド」の實現するは正に今日にあ

り、私は確信するものである。英國は多年インドを欺きこれが圧制を續けて來つた  
のである。前大戦の際英國のなしたる約束の正体がつひに如何なるものであつたか  
は今なほインド人の記憶に新たなるところである。信ずるのである。今やまた英國  
はあらゆる甘言を以て印度を欺かんとしてゐる。若しそれ印度の指導者にして此の  
英國の甘言に誤まれ、印度民衆多年の希望を裏切り、此の天與の機會を失ふが如  
きことありとせば、印度は永遠に救はれるの機なく四億民衆の不幸これより甚しき  
はないと信ずる。

と又舊インド民衆のために温情を重ね、印度指導者にして此の天與の機會を失ふや  
うなことがあるとせば、印度は永久に援けられるの機がない。決して英國の甘言に欺か  
るべきではない。英國の約束の正体が果して如何なるものであるかは、前大戦の際の  
約束によつて、今なほ印度人の記憶に新たなるものがあらうと思所を突いてゐる。

#### (八) 敵つて欺れざるなき米英

東條首相は印度に向つて「今や最後の決意をすべき秋だ」と力強く指摘し  
「インド人のインド」として大東亞共榮圈建設の光榮を播ふが、併して永久に米英の  
桎梏の下に奴隷の名を後世に傳ふるが、今まさにインドは過去を精算し此の緊迫せ  
る新事態を重視し最後の決意をなすべき秋に當面してゐるのである。



と断じたことは確かに印度民衆に至大の反響を喚んだものと見られる。それは後に記  
さんとする在日インド獨立運動の大立物ラス・ビハリ・ボース氏が三月十三日即ち東三  
次東條宣言が發せられた翌日夜AKのマイクを通じて放送したのによつても、また日  
を同じうして在ドイツ印度獨立運動の闘士チヤンドラー・ボース氏がラジオを通じて國  
民に呼びかけたのなどによつても窺知される。東條首相は次いで重慶に呼びかけ  
今やラングーン陥落して米英との連絡は茲に全く遮断せられ、重慶政權は文字通り  
孤立の状態に陥つたのである。而してなほ米英の重慶に與へんとするものは價值な  
き黄金であり、而もこれに對し米英が重慶より求めんとするものは中華民國國民の  
血と肉なのである。今日米英があらゆる欺瞞と甘言とを以て諸民族を籠絡し他の國  
家を擧げて自己防衛の犠牲にし、而も一度敗るゝや弊履の如く捨て、敢て顧みざる  
生々しき事實を眼のあたりに見ては悟らざる重慶の指導者に對しては私は云ひ知  
れぬ義憤を感じざるものである。而して此の花々しき大東亞の黎明期に於て彼ら指導  
者に盲従し無益の戦を續け、無益の苦しみを嘗めつゝある重慶政權下の民衆に對し  
ては私は表心より哀みを感じざる次第である。

となほ悟らざる重慶の指導者に對し「私は云ひ知れぬ義憤を感じざる」と公憤を洩さ  
無益の戦を續け、無益の苦しみを嘗めつゝある重慶政權下の民衆に大なる同情を表さ  
れたのである。東條首相は論鋒を鋭く米英に向け

大東亞戦争開始以來こゝに僅か三ヶ月、今や米英の主力艦隊は太平洋よりその影を

没し西南太平洋の據點また悉く我が掌中に陥つたのである。戦前帝國の国力を輕視し  
自ら不敗の態勢を豪語し、我が正當なる主張を拒否し、遂に帝國をして戦端を開くの  
やむなきに至らしめたる米英は今や戦つて敗れざるなく、付つて矢はざるなき現實を  
暴露してゐるのである。此の現實の暴露に對し米英の爲政者の責任を回避せんとする  
辨明と思ひも及ばざる虚構の宣傳とを聞き、私は彼ら政府當局の厚顏無恥なる態度  
に對し批評の言葉を發見するに苦むところである。

と米英の「戦つて敗れざるなく、守つて矢はざるなき」現實の暴露を指摘するに共  
に、米英當局の厚顏無恥なる態度に恠れかへらざるを得ない點を徹底的に極論した。  
而して米英政府當局は徒に意を將來に決き希望をつなぎその大軍備擴張を豪語して  
ゐるのである。斯くの如きは太平洋に於て彼らにとつて代つたわが戰略的優位を故  
意に輕視し、また軍備擴張の訓練、作戰の至妙、將兵の忠勇、國內不動の結末に對  
し殊更に眼を開か徒らに計數を掲げて自らの不安焦躁を掩ひ隠さんとするものであ  
つて、彼らの希望の水泡に歸すべきは火を踏むよりも明かである。私は茲に爲政者  
の野心に誤まられてその傳統を破り目途なき戦争を敢て一歩一歩破滅の道を辿りつ  
、ある米英國民はこの際深く反省すべきものであることを確信する次第である。

とルーズヴェルト及びチヤムネル一派の如き爲政者の野心に誤られつゝ、ある米英國  
民に反省を促して後、東條首相は盟邦諸國に向つて一言した。

獨伊を初め歐洲に於ける盟邦諸國がわが積極的作戰に呼應して着々多大の戦果を擧



げてゐること、眞に慶祝に堪へない次第である。帝國は今後いよいよ、提督相兼意して世界新秩序建設のために邁進せんとするものである。また滿洲國、中華民國國民政府、泰國等の終始變らざる協力に對しては帝國の衷心より感謝に堪へないところである。帝國は大東亞建設の一翼を擔當するこれら諸國民といよいよ、提督相兼意して共同の目的達成に一路邁進せんとするものである。

一轉してその論旨を國內に向け、大東亞新秩序建設に對し國民の堅き決意を要望した。

惟ふに此の光榮ある大戦果は、御被威の下皇軍將士の善謀勇戦によるのであつてこれに對して我々國民齊しく感激に堪へないところである。然しながら此の輝かしい勝利の陰にはまた國民諸君があらゆる艱苦を忍んで統帥の責に任せられてゐることが與つて力があるのである。帝國は斯くして結戦の大捷を博した。而して帝國は今や赫々たる大戦果を獲充し飽までも積極的作戰を敢行して米英を徹底的に擊破し、以て大東亞新秩序を確立し、世界平和の招来を期せねばならぬのである。戰爭は正にこれからである。而して建設もいよいよこれから本格的となるのである。我々國民はこの結戦の勝利に醉ふことなく、滿洲事變以來黙々として續け來つた不撓不屈の精神を更に昂揚し、如何なる艱苦も逢んで之を克服し、以て國民一途相共に前途の輝きき希望に燃えつゝ、有終の美を全うせんことを誓ふ次第である。

以上の東條總理大臣の大東亞戰爭開始以來行つた第三回目の宣言が如何に世界を動

かし、敵國米英に大衝動を起さしめたかは、其の後の敵國の動搖に見ても明かである。而も皇軍の戦果が着々として物を云つてゐるのであるから、米英は現實に我が國の一致する言行を体験せしめられつゝ、ある譯である。

### (九) 印度志士兩ボースの放送

東條首相の第一次、第二次聲明にその激運を醸成し、第三次聲明で大反響を喚んだのは印度である。前にも一寸記したが日、獨、タイなど世界各地に散在する印度獨立運動の志士たちは一齊に湧起しつゝあるが、在日インド獨立運動の元立物ラス・ビハリ・ボース氏は第三次東條聲明のあつた翌二月十三日夜A.Kのマイクを通じて左の如く放送した。此の放送は日本を盟主とする東亞共榮國に参加すべきか、英國の従來の庇護の下に甘んずべきかの前途に迷ひつゝ、動搖してゐるインド人に對し指標を與へるものとして注目されてゐる。

ラス・ビハリ・ボース氏放送の要旨

我ら印度國民は開闢の神ブラタマーヤチより開展したる民族であり、また神の啓示によつて立てられたる一大使命を有し、またそれを實現すべき義務を負つてゐる。數千年に亘つてインドに榮えて過去の歴史は國民がその使命を實現した結果である。その間英國の侵入によつて吾人は民族的試練の時代を経過せざるを得なかつたが、



今や我ら國民は凱歌を擧げてこの武庫の時代に突進せんとしてゐる。今や余は武裝せる英國の圧迫に對して武力を以て諸君が臥薪嘗膽よく戦ひ抜いて来た世界に比類なきこの闘争に對して我が親愛なる日本國民が稱讃してゐるのを聞くことに誇りと喜びが胸に溢れて来る。此の機會に余は諸君の奮闘努力が成功の榮冠によつて飾られ幾千萬の尊き過去の犠牲も實を結び印度國民が外國の束縛を断ち切つて天より與へられたる使命に向つて邁進すべく輝く日の近く来ることを確信してゐる余が、今や大アジア代表として獨立運動を開始するに當つてインドがその自由を英國に奪はれて以來その自由を取戻すために個人としてまた團體として生命を捧げた先輩中、その中には國民の敬慕の的となりし人もあるが、その多くは名も知られず敬意も拂はれなく消えた人々もあるが、彼らすべてに向つて敬意を捧げたい。特に一八五七年のインド最初の獨立運動として戦つた將兵に向つて、インド敵たるは回敵たるを問はず深甚の感激を捧げるものである。その後の革命運動に於て英國の圧迫に反抗してひそかに武器を執つて自己の生命は素より一切を犠牲とした先輩に對して感激を擧げるものである。彼ら教島の戰士と國民とは不幸にも最後の目的に達せず休むたのであるが、併し今日日本が米英打倒のための雄々しく立上つたことによつて此らの英靈が生前とらへることの出来なかつた好機を與へられたことを知り必らずや安心して眠せられること、信ずる。嗚呼専ら英靈よ、余が果さんとす大事業に對して正しく導き給へ、最後に余はインド國民會議の創設者及びその指導者連に對して

深甚の感謝を捧げたい。此れらの先輩諸氏の有能なる指導があつたればこそ今日われら／＼インドの内訌からその解放と獨立のために戦ふべき責任と名譽とを擔ひ得るのである。従つて「ダダ・ブ・ハイ・ナ・オ・ロ・ヂ」、「スレンドラ・ナート・バネルヂ」、「ロカマニヤ・テイライ」、「ゴカール」、「ベビン・チヤンドラ・バル」、「ララ・ラヂ・バット・ライ」、「ハキム・アヂマル・カーン」、「デシ・ベンド・チタ・ランヂヤンドラス」、「バンヂイット・モテイラール・ノール」、「スヂト・ウイト・ハル・バテール」及びその他の指導者たちに對して心からの敬意を捧げる。願はくば此れらの英靈が、今やインド人のインドを、アジアのインドを建設するために微力を盡さんとする不肖余の熱誠に對してあの世から祝福を送り賜はらんことを

更にインド人のインドを建設するために無執着の努力をなされてゐるガンダーをはじめとして現代の各指導者に對して心からの感謝を表した。それと同時にインド教徒とイスラム教徒とを問はず國民會議派と非國民會議派とを問はずまたインド教徒大會と回教聯盟とを問はず諸君は互ひに融合し舉國一体となつて英國を撲滅し、アジアのインド、インド人のインドを實現せんことを要求してやまざる次第である

と、呼びかけたが、右のビハリ・ボース氏と相呼應して目下獨逸にゐるインド獨立運動の關しチヤンドラー・ボース氏は日を同じうして十三日ラジオでインド國民に呼びかけ、インド國民が英帝國の絆を脱すべきは今であると熱烈の辯を揮つた。



### チヤンドラー・ボース氏放送の要旨

日本軍のラングラーン占領によりビルマは英帝國より解放された。英帝國は今や一歩を維持することを許され、あるのだ。インドがエアルの如くに今次戦争に中立的立場をとり、然るに英國はインドを人的にも物的にも戦争に驅りたて、あるのだ。英國はこの危機に當面して再び甘言を用ひてインドを懐柔し、インド人の骨までもしゃぶらんとしてゐる。併し印度人はかゝる手には乗ることはないだらう。クリップスがインドに出かけても何らの効果もないだらう。我らの敵、英帝國が崩壊しつゝ、あると云ふことは我らの幸福を意味するものだ。即ち日獨伊三國が我らのために新秩序を建設しつゝ、あるからだ。今やインドに自由と正義と禁禁が訪れつゝ、あることを我らは心より祝福せねばならぬ。

と、日獨兩國に在つてかうした時機を待望してゐたインド獨立運動の志士を率ゐる兩巨頭が一は東京から一は暹羅から四億の印度民衆に呼びかけたのは至大の効果を喚起した。

### (十) 印度國內各派の對立状態

英國が崩壊の一途を辿りつゝ、あることは、連戦連敗の極インドを急戦に驅り立て、

最後のがきをはしつゝ、あることによつて知られる。

英國からはそのために特派使節として國重尚書クリップスを印度に派遣した。クリップス一行は三月二十二日午後航空カヲチに到着したが、これがクリップスの印度入り第一歩であつた。一行は同日のうちに特別仕立の飛行機で目的地ニエーデリーに到着し最初の公會席上で次の如き挨拶を行った。

余の滞在期間はわづか二週間なので希望通り各方面の人物と會ひ談は行かないであらう。余は印度の我が友人が余の滞在期間が短時間であることを諒解され、余が印度を去るまでの間に此れら要人と面接し得ない場合があつても寛恕されんことを希望する。此の事實にかんがみ各重要政黨の領袖達が十分なる決意をなすべき準備をされんことを希望する。また印度に關するイギリス戰時内閣の新方針についてはその内容を洩らす譯には行かないが、余は印度國民が新方針を速かに受諾することを望む。

右の言明はイギリスの對印新方針なるものが未だに印度の自治に關し決定的な形をとつてゐないことを示すものである。更にクリップスはイギリス戰時内閣の一員として英印間百年の懸案であつた印度問題の最後の解決を此の際にかりたいとの希望を陳べ、一たび此の解決がなされる場合、印度國民はイギリス本國及び各自治領のみならず吾々の同盟國たるソ聯、轉政權、アメリカとも自由に任し得る地位に置かれるであらう」と老練なる懷柔策の片鱗を示したのである。



こゝまでインドの民族運動は英國の老翁なデイヴアイド・アン・ド・ルール（分制統治）政策と暴虐なる機關銃の前に壊滅され来たが、インドが英國の恣意な分制統治政策に乗せられたのはインド自体のうちにも原因があった。それは人種・言語・宗教・階級制度の相違に基く社會の複雑性であり、それによる民族運動の不一致である。其のうちでも全印度人總人口の内六割八分を占めるヒンヅー教徒と一割二分を占める回教徒の紛争。ヒンヅー教徒の利益を代表する見られる國民會議派と回教聯盟の對立。インド總面積の二割四分を持つ土侯國の存在等はインドの種である。ヒンヅー教徒はこれをブラーミンの神に對する最大級の冒瀆として回教徒への復讐を誓ふのである。ヒンヅー教徒の春の祭には奇麗に看飾た老若男女が色水をかけ合つて喜ぶ習慣がある。たゞく祭見物に來た回教徒にその色水がかゝることがある。兩教徒の鬭争の原因はかゝる宗教的習俗の相違に基くものであるが、これに國民會議派と回教聯盟の對立が絡まつてゐる。

而して回教聯盟の立場は多教種族（ヒンヅー教徒を指す）の專制反苛、回教徒社會の自由獨立を掲げ及英國争奪りもヒンヅー教徒に鋒先が向けられてゐる。國民會議派がヒンヅー教徒の利益を代表する傾向は否めなないがその主要目標は反英獨立運動であつて國民會議派にも回教徒は多教参加してゐる。回教社會の代表者ムハメット・アリも「神の支配する世界に於ては我々はあくまで回教徒であるが、事インドに關しては約ま

までインド人であり、インド人以外の何ものでもないことを述べてゐる。それ故獨立運動に關する國民會議派と回教聯盟の對立云々には全インドの輿論を播く國民會議派の獨立運動を攪亂し週小評責せしめんとする英國の宣傳が多分に含まれてゐることを知らねばならぬ。なほヒンヅー、回教兩教徒の黨派として少數黨ではあるがヒンヅー・マハサバ黨とカクザール黨の活躍も見逃せない。ヒンヅー・マハサバ黨は行動本位のヒンヅー教團體で、その反英態度は頗る積極的である。カクザール黨は回教聯盟の微温的態度に可を引いた回教徒團體で、英當局では同黨をナチス第五列として彈圧を加へてゐる。

前大戰當時眞先に英國に對し忠誠を誓つたのは六百餘の土侯國の土侯達であつた。また今次大戰勃發に際してはハイデラバードが空軍一個中隊を献納したのを始め三百餘の土侯が参戰を表明して、參戰反對を叫ぶ獨立運動に大なる脅威を與へてゐる。彼ら土侯は英國に忠誠を誓ふことによつて「封建社會最後の保壁」を守ることとを保障され、民衆を無條件に搾取することを許さしめんとするのである。こゝに對する英國の方針も「英國のインド支配に於ける功業であり要隘である」として彼らの專制を許與して獨立運動抑圧に重大なる役割を課してゐる。土侯國は内政上ある程度の自治を認められ去理上は一應獨立國と云ひ得るが、その内幕は英國が駐在官を派し土侯達の政治顧問として重要事項一切は總督の手に握られしてゐるのだ。こゝで一見インド人に開放されてゐる如く見える英領インドの各州、州民がつくる州



政府の上には州知事が控へ、州知事は總督により自由に任免される。英國は土侯諸國と英領各州を綜合し各土侯を自國の傀儡として利用することにより各州を牽制してゐる。

以上のやうな印度の國內状態であるから、統治國としての英國のために自由自在にあつて來たかゝの觀がある。かうした事態をインド各派が十分認識を深めて協同行爲に出なければ、結局老獪なるイギリスのために利せられることになるのである。印度各派の指導階級は此の小異を捨て、大同につくの舉に出るべきが刻下の急務中の急務である。インドに乗り込んだイギリス國軍向書クリップスは印度總督リンリスゴラインド各州代表との間に會談を進めたのである。

### (五) 英印會談に入る

クリップスは英印會談に入るに先だち二十四日記者團との會見で次の如く語つた。余はイギリス戦時内閣で得たるインド問題についての結論に關しインド各派領袖との間に協議を行はんがためインドに來たものである。余は此らの結論がインドの輿論に容れられるか何うかにつき確めなければならぬ。右のクリップスの言明に對し記者團側から「では貴下の擧行せるインド問題に關す

るイギリス側提案とはどんなものであるか」と質問した。それらに對しクリップスは「余は此れから協議されるものとす。イギリス側提案の内容が如何なるものであるかについては發表する譯に行かない。併し次のことだけは云へる。即ち本提案の主要目的はイギリスは過去に於て印度國民に與へたる自治の約束を履行せんとするため實際的手段を最終的に且つ確然と取極めるにあると云ふことである」と答へ、例によつて完全獨立なる言葉には一言も觸れず、英國の常套的言辭たる自治の約云々を繰返したに過ぎなかつたが、クリップスの擧行案が如何にも英國政府の最終案であるかの如き印象を與へた。また一方、クリップスは遣印使節の擧行した英戦時内閣の對印提案は次の如きものと觀測せられた。

#### 英の對印提案内容

- 一、英埃協定とは同じ趣旨によりインドの自由を保障することを約束する
- 二、インドはイギリス及び他の聯合諸國と同盟を締結し最後の勝利まで戦争遂行の義務を負ふ
- 三、インドは如何なる敵國とも單獨講和をなさざること
- 四、インドの内部的の統一を尊重し、インドをインド教國と回教國とに分割せざること
- 五、斯くして成立するインドの中央並びに各州聯立政府は全幅的に戦争遂行業を支持すること



六、戦後の平和會議にはインドは他の諸國と平等の資格に於て参加すること  
以上の如き腹案を持つてゐるシリッポスは三月二十五日インド側の二大團體たる國  
民會議派及び全印回教徒聯盟の両首腦と會見し、よく英印會談の幕を切つて落した。  
即ち、シリッポスは此の朝宿舎たる總督官邸を出で特に設けられた英印會議場へ赴き、  
先づ國民會議派代表を招致、アザット首領及び同派運用委員の一人たるアサフアリの  
兩名と一時間十五分に亘つて會談した。アザット一行が辞去するや僅か三分の後、印  
度回教聯盟總裁ジンナーが到着、これまた一時間十五分に及ぶ會談を行つた。  
そこでアザットはシリッポスとの會見後同派領袖ブラバリー・マザイ、副首領サッテ  
マムル、マハトマ・ガンジの息子のデヴアダス・ガンジ及びインド州内閣首相ア  
サー・ブツクスらと協議した。其の結果三月二十九日同派運用委員會を招集してシリッ  
ポスより示した英政府提案を審議することになつた。一方、全印回教徒聯盟も三月  
二十七日同派運用委員會を開いて英政府提案を討議することになつた。  
イギリス遣印特使スタッフ・オード・シリッポスは三月二十九日午前ガンジの外國民  
會議派領袖ホーレル、同會議々長アザット並にその他の同派領袖と一時間三つて會談  
を遂げたが、同夜インド問題處理に關するイギリス政府提案内容を發表した。それによ  
り印度諸領袖との道義宣言草案と題し今次戰爭終結直後に新シキインド聯邦を創設  
しこれに自治領の資格を與へることを約束せるものである。その要旨は左の如くである。  
印度諸領袖との道義宣言草案の要旨

一、新シキインド聯邦(インディアン・ユニオン)は一自治領を構成しイギリスの王冠  
に對する共同の忠誠によつてイギリス本國及び他の諸自治領と統合する。但新自治  
領はあらゆる意味に於てイギリス本國または他の自治領と同等の地位に於かれ内政  
外交に關し如何なる點に於ても從屬的な立場に置かれぬ。  
二、印度内の各州が新憲法を受諾せず、現行憲法による地位を維持せんとする權利を認  
め且つ新憲法起草委員會が人種的に宗教的に少數民族に對し保護を加へることを  
條件としイギリス本國は新憲法を速かに受諾するであらう。インドは新憲法によつ  
て人種並に宗教上の少數民族保護のため一機關を設け、これに關しイギリス本國と  
の間は條約を締結する。  
三、新憲法起草委員會は戰爭終結後新選舉による英領インド各州議會の全員を選舉民  
として選出さる王侯領もまたこれに代表を參加せしめる。  
右によつて知られる如くイギリス政府提案は果して何ら即時完全獨立を許容せず前  
大戰當時に於けると同様、相變らず戦後に於ける自治を約してゐるに過ぎず、即時完  
全獨立を要求するインド民衆が擧つて此の形を變へた空手形に再び欺瞞さるるが否か  
大なる疑問があると思はれるに至つた。  
三月三十日の國民會議派運用委員會はイギリス側提案を中心に活発な討議が行はれ  
たが、大勢はイギリス案拒絕に決定したものの、如く看取さるれば、現に國民會議派の一  
首領は、イギリス案受諾に賛成したものは一名もなかつた。と委員會の強硬な態度を



明らかにした。従つて最早クリップスの言明によつてインド側の態度を變更し得る餘地は殆どなくなつたので、英本國政府が同案修正の権限を彼に與へぬ限り、クリップスの使命は既に失敗に近づきつゝあるとの見解が行はれた。

クリップスの提案公表により英國の對印態度は明白と云つたが、最初から即時完全獨立を要求し來つた國民會議派は此の提案に示された戦後於ける自治供與に對し早くも反對の氣勢を擧げ、一部總和派を除き大部分は不満の色を明かにした。殊にヒンズスタン・スタンダード紙の如きは絶對反對の意を表し、「クリップス案に從ふ時は最早インドは存在しなくなるであらう。即ち印度はヒンズスタン・インド教國、バルキスタン（回教徒國）、プリンセスタン（王侯國）の三つに分裂されるを得ない」と言及したのである。

### (土) 會談英側の不利に傾く

また國民會議派系のカルカッタ有力紙ナムリタ・パールトリカは次の如く論じてクリップス案に反對を表明した。

我々が常に主張してゐる所は印度の非常時政府は完全な意味に於ける國民政府でなければならぬと云ふことであつた。そして此の國民政府は敵と戦ふために全インドの資源を有効に動員し得る如き全權を保持せねばならぬ。印度民衆はその責任を敢

て用意はもつてゐるが、その前にまづ民衆の權利が中央政府に於て如何に確立されるか、明らかにその水俵はならぬ。

更にまたマドラスのヒンズ紙は、「英國提案はインド聯邦の構成を目標とするとしてゐるが、その實はインドに幾つもの獨立政治體をつくり上げ、一にして不可分なるイン民衆の福祉を力に結束するを得ざらしむるものである」と極論した。

クリップスの訪印は、インド人の印度國內に在ると國外にあるとに論なく大なる關心を喚んだが、國外に於ける國民會議派の有力者達は次の如く峻烈なる批判を下してゐた。

印度に着いたクリップスがその本部を豪奢な總督官邸に置きインド滞在の第一日、インド民衆の代表者をこし置いて總督やウエーヴエル將軍や參事會議長らと會談したことは、彼がインドのよき友であり理解者として來たものでなく、イギリス帝國主義の代辯者たる以外の何物でもないことを立證するに十分である。眞に彼がインド獨立の同情者であるなら彼はその本部をアラハバッドに置いて先づ一番にインドの指導者と會見したであらう。ロンドンで仕事が出来ないならインドには二週間ばかりしか滞在出来ないなどとは不謹慎な言葉である。インドは自由のため百年も闘つて而も目的を達成し得ない重大問題を僅か二週間位で片付けられたらお目にかゝりたい。彼の意圖はインドの腹を探つてなんとか懐柔する手段はないかと敢く考へてゐるだけである。インドの民衆特に國民會議派はインドの前途はインド自らが決定す



るものでロンドンの意にまづいて左右を引るものではないことを嚴請に宣言する。右の批判はよく英の遺印特使クリップスの心の中を覗くやうに云ひ當て、ある。イギリスの政いやり方は第一次大戦の時に約束した印度獨立を反古にしてしまったのでよく分つてゐる。如何に印度でも此の欺瞞を二度とくり返さるる筈はない。ゴインドは自由のため百年も闘つて而も目的を達成し得ない重大問題を僅か二週間位で片づけられたらお目にかかりたいと論破したところには、今次のクリップスの役目の難關がある。事實不可能なことをイギリスが行はうとし、特使クリップスも亦不可能なことを断行しようとして使ひしたのである。印度も今度と云ふ今度こそは、インド人のインドをたらしめなければならぬ。夫には先づ英の提案を峻拒することを第一條件でなければならぬ。

イギリス提案中の印度防衛問題に關し、國民會議派の態度を夫すべき運用委員會の見解は三月三十一日クリップスの手許に手交された。即ち同日の運用委員會ではクリップスの提案を組上に三時間半に亘つて慎重討議を行つたが、此の日ガンジの強硬態度が委員會に反映して會議は重々しい空氣に包まれ非常に緊張した。

國民會議派は四月一日も運用委員會を再開四時間半に亘つて討議したが依然結論に達せず、翌二日又も四時間に亘つて協議の後、遂にクリップス提案の受諾を拒否するに決した。

そこで國民會議派議長アザドはホールを帶同二日クリップスと約五十分間に亘つ

て會見イギリスの對印提案に對する國民會議派運用委員會の回答を手交したが、その内容は次の如くである。

### 英の對印提案に對する會議派回答文の内容

假りに如何なる結果がインドに現出されるとしても國民會議派は現在インドに波及しつつある戦争の發展によつて惹起する世界の新情勢を考慮せねばならぬ。國民會議派は自由のために戦ひ犠牲となつた民族には同情は持つが、併し眞に自由にして獨立せるインドのみが自國の防衛をなし得る能力を持つものなることを確信する。一方全印回教徒聯盟のクリップス案に對する態度を決すべき運用委員會は三月三十一日結論に到達せず、四月三日の同聯盟年次大會をアラハバッドで再開、審議を續行したが、遂に反對を決議した。斯くしてその翌四日印度回教徒聯盟總裁ジンナーは次の如くクリップス案反對の立場を明瞭した。

### ジンナーの英案反對に關する意見

英側の對インド宣言文は幾多の缺點を包蔵してゐる。我々の固き決心と唯一の目標は回教自治領パキスタンの實現である。インドをヒンヅー教と回教とに分割せんとするパキスタン運動は断じて讓歩せず、我々は飽までもこれを戦ひとるであらう。即ち、我々の要求はヒンヅー地を分離せるモズレス獨立自治州を確立すること、パキスタン成立に支障ある一切の獨立立案に反對する。



(三) 英印會談の山見ゆ

また總領事と目と水である國民自由聯盟指導者スリニヴァサ・サストリも四月三日ボンベイに於て見解を披瀝し、「インド聯邦から獨立せる自由州の設立を要求し、現在の如きイギリス案は實にイギリスと印度とを抗争に導くものにするにすぎぬ、寧ろ一時時期を延期すべきである」と主張した。

漸くして印度を参戰に導かうとしたイギリス政府の策謀も物の見事に齟齬を來すことになった。覺醒せるインド人は最早イギリスの欺瞞策には乗せられぬまでに進んでゐる。

國民會議派の英側提案拒否により英印會談は一大難関に達するに至ったが、クリップスの背後にあつて軍事的立場から英印會談の糸を操つてゐた英インド軍司令官ウーイーヴエルはクリップス提案とインド側要求との間の懸隔を狭めんとして暗躍を開始。三日クリップスと長時間に亘つて問題の焦點たるインド防衛に關する英側の譲歩點につき提議を遂げ、四日夜の四者會談の對策を練つた。

漸くして國民會議派議長アザッド、同派領袖ネール、英國インド軍司令官ウーイーヴエル及びクリップスの四者會談はインド問題の成否を次すべく異常なる緊張裡に四月四日行はれた。その内容は、問題の焦點たる印度防衛に關してはウーイーヴエルを陸軍總指揮官たらしめることを條件としネールの印度防衛相就任を認めることに妥協しよ

うと云ふのがクリップスの腹案であつた。詰り英國は防衛相の行儀を印度人に與へて飽まで軍統帥の實權を自己の手に留保しようとして云ふ魂膽を存してゐたのだ。

印度國民會議派運用委員會は四月四日再度の會議を開き主要密議を遂げたが、アザッド議長は會議終了後「今日の委員會はインドが戦争に巻き込まれることがある場合に處する會議派の態度の大綱を起草したのである」との重要な言明を行つた。此の會議にはガンジールも出席して彼の歴史的意見を開陳したがそれは非常に重要視され

た。ガンジールは四日の國民會議派運用委員會に列席した後ワルダザへ向つた。ガンジールのワルダ歸還は英印會談の推移とは直接に關係なく、従つて彼のワルダ行きが特別の意味を引出さうとするのは誤りであると評されたが、ガンジールとしては英印會談の大勢に見切りをつけた結果だとも云はれた。

ガンジールは四日秘書ラジマゴ・ピラチヤリを通じUP記者に對し次の如き聲明を行つた。

ガンジール翁の喝破するインド人のインド、インドが英國に對し軍事的援助をするか否かは偏へに今次戦争がインド大衆のため



將來獨立を與へると云ふが如き保證は大家にとり一顧の價値も有しない、勿論インドが英國に對し戦争をするに云ふが如きことではないが、去りとてインドが戦禍に巻き込まれることが大家のためにも考へることは出来ない、インド大家の要するものは、インド人のインドを建設すること、他に何らの野心もない。

前記の四者會議に於けるウエーゼルとアザツドとの會談にはカンジーに次ぐ國民會議派の領袖ネールが兩者の間にあつて通譯の任に當つた。右會談の結果、英國がインド人数百萬名を戦争に参加せしめるべく企圖してゐることが明かとなり、これが英印交渉の新たな難関となつた。その會談終了後、ネールは「再びウエーゼールと會ふことはあるまい」と意味深長な一語を漏らした。

一方、會議派の長老ガンジーは「對日戦線にインドが巻き込まれることは自分の家に火をつけるやうなものだ」と會議派領袖に嚴重警告したほどである。

英國政府は暗礁に乗り上げたインド問題打開のためのクリップスに對し提案修正の権限を一任したが、英戦時内閣内閣では英國側原案の全面的受諾に拒否かの態度で印度に當るべきである主張した。即ち國民會議派主張の重點はインド人を防衛全權を有するインド防衛相に任命すべきであることと云ふ處にあるが、これに對しては英首相チャーチル及び英軍部首腦は絕對反對の態度を保持してゐるのでクリップスが示唆してゐる如く或る一定限度の権限のみを有するインド人防衛相の任命が英國の譲歩し得る最大限度であると見られた。然し國民會議派は右妥協案に對し絶まで自説を主張したので

交渉は決裂の一途に向つて發展した。右の如くクリップス特使とインド各派代表との折衝もいよいよ最後の段階に近づいた。而も印度側からは積極的にクリップス提案を修正する逆提案をクリップスに提出、クリップスからは英本國に轉電請願をした。併し大勢を見越した國民會議派運用委員會は何れも英印會談の地ニエーデリー引場の日を四月八日と豫定したほどであるから、英印折衝の山もこの一兩日間と見られた。會議派長老ガンジーは彼の主宰する週刊新聞「ハリジマン」の四月五日附紙上に、「カナダ青年が發した「新しき印度政府は在留イギリス人に對して如何なる政策を行ふか」イギリス人その他の外國商社は依然として印度内で業務に従事することが許されるか」との質問に對し次の如く彼の意見が發表せられた。

若しも余が印度の政策に對して少しでも影響力を有するものとすれば、印度は外國人を歓迎する。但し彼らの存在が印度のためになることを條件とする。彼ら外國人は彼らが今日まで行ひ來つた如く印度を掠奪し印度を貧窮に追込むことは今後許されぬ。

以上の如く、インド指導者の意向は強硬であるから、イギリスの意圖が如何に對極軸戰に印度を驅り立てようとしても、目覺めた印度を再び欺瞞し去ることは出来ない。米大統領ルーズヴェルトの特使ライス・ジョンソンは國民會議派領袖ネールと四月四日二時間半に亘り第一回の會談を行つたが、其の主たる用向きは、クリップスの印度到着後の情報推移に關する英國側の公式説明に據らぬため腹心の特使から直接最新



の情勢を入手する必要を認めただからだと傳へられた。

#### (十四) 東條首相の對印度宣明

東條首相は印度に於ける我が軍事行動開始に關し四月六日次の如き談話を發表、帝國の真意を中外に闡明した。

##### 東條首相の對印度宣明

皇軍はさきにビルマの要衝ラングーンを占領し、更にインド洋東部の戦略的要衝であり、インド獨立志士流刑の地であるアンマダン諸島を占領したのであるが、今回更に進んでいよいよ印度に於けるイギリスの兵力及び軍事施設に對して一大打撃を加ふる事となつた。尙く如くにして大英帝國の帝國の断乎たる決意は着々として實行に移されつつあり、若し印度に於て依然英國の軍事的支配の下にあるならば此の帝國が英國擊滅のため行ふ攻撃によつて印度が甚大なる戦禍を蒙ることもまた已むを得ざるところである。素より帝國の企圖する所はインド四億の民衆を敵とするものではないのであつて、此の際戦禍を蒙るインド民衆に對しては洵に同情に堪へない次第である。

インド民衆に對する帝國の真意はさきに余が三月十二日帝國議會の演説に於て述べたるところに明らかである。即ち余は今日こそインドを建設してインド本然の姿の

確立に全力を致すべき絶好の時期であることを確信するものである。今やインドに於ける英國の勢力が撃潰されんとするこの秋にあたり、余は重んじてインドの指導者は素よりインド四億の民が没落の運命の下にある英國の甘言に誤まらば無益の戦禍を蒙ることを避け、この天與の好機に際し英國多年の羈絆を破碎し眞に「インド人のインド」實現のため邁進せんことを期待するものである。

以上の東條首相の印度四億民衆に呼びかけたことは時期に於て最も急迫を告げている時であつただけに、印度の指導者に與るる利戦もまた曠る大であつたらうと思はれる。それは雪に、皇軍が印度洋を制壓して印度の動向を見守つてゐる際であるのみならず、時は將に英印會談が最盛期に達してゐた時であつたからである。

國民會議派の長老ガンジー領袖ネル、議長アザッド、全印回教徒聯盟總裁ジンナ、其他の指導者も、東條首相の謂ゆる「天與の好機」を逸してはならぬと云ふ決意に燃えたことであらう。イギリス多年の羈絆を打ち切るのには正にこの時を置いた。この勇猛心にたざつたことであらう。イギリス特派使節クリップスが英國政府の指令を受け有らざる對策を講じ、讓歩的立直し案を突きつけて見たがインド指導者連はそれの手に乗らず、「インドの望むところは印度の眞の獨立にある」の徹底論を以て押し切つた。而も東條首相の右の對印度宣明はインドの指導者の決意を促すには最も當を得た時機であつた。世界の犬勢が既にその動向を示してゐるとは云ひ、印度指導者として誤らぬ行動を取らうとするには餘程の決意を要するものであることは云ふまでもない。



所である。

### (五) 印度國民會議派の動向

英印交渉に関するイギリス側の空気が終始悲願論の問を往來してゐたが、一方ニ  
ユーデリーで最後の工作に必死のクリップスは印度側との際限のない會談に相當厚心  
を切らした。然し問題の焦點は依然として防衛權問題にあつたイギリス側は、インド  
國防相の地位を國民會議派領袖ネールに與へることを提案したが、同時に現英インド  
軍司令官ウエーヴエルを印度總督に任命し、國防相を新總督の監督下に置くべく策動  
した。

これはウエーヴエルをして總督と英インド軍司令官との兩地位を兼任せしめようと  
したもので、印度の支配を確保し同時にインド人をし對日戰に協力せしめようとす  
る英國の眞の意圖を明らげにしたものであつた。かうした意圖を有してゐたので樞軸側  
の奇印放送の影響を恐れ、特に日本側の對印呼びかけを恐れてゐた。其のため英國は  
今次の老増なる奇印提案の内容發表を躊躇したほどであつた。

然しながら一方では日本軍のセイロン島攻撃を始めインドへの脅威が日と共に迫つ  
てをり、結局インド側の對英態度決定は、此の印度への脅威の加重速度如何にかつ  
てゐる。従つて印度側としては戰局の發展を樂觀しつつ、ある譯であつて、急速にその

態度を決定することはあるまいと見られたものである。

かう云ふ情勢下に而も東京より永條首相の前記の對印放送があつたのであるから、  
イギリス側にとつては恰も冷水三斗の思ひを禁じ得なかつたであらう。

國民會議派領袖ネールは四月六日夜ニユーデリーに於て英印會談に関し演説を行ひ  
國民會議派の立場を強調すると共にイギリス政府提案を批判するところあつた。その  
演説要旨は次の如くである。

#### ネールの演説要旨

- 一 印度の實質的結合に對する要求即ち草にイギリス直轄領のみならず、王侯領をも  
包括する一元的合同を要求するものである。我々はその統一のために戦はんとして  
ゐるのであつて印度の分裂は許容しない。
- 二 従つて印度王侯諸領が今日までイギリス政府との間に結んでゐる諸條約も雖も  
それが人類の利益と人類の權利とに反するものである以上は總て廢棄せしめられねば  
ならない。印度は自由なる一体とならうとしてゐる。現在の戰爭は全世界の體を變  
へてしまはねばならない。従つて印度王侯諸領も共に變化しなければならぬ。
- 三 イギリス直轄諸州がイギリス政府提案によつて將來の印度同盟から分離する權利  
を與へられることは取りも直さず回放旋のバキスタン要求に屈せるものであるから  
國民會議派その他はこれを以て罪惡を見なす。
- 四 他方王侯諸領の統治者がイギリス政府提案によつて戰後の憲法制定團體形成にあ



たり各國の代表を指名する権利を與へられらるゝことも妥當ではな、前記のホール演説中、最後の項目はさきにアザッド黨首よりクリップス特使に手交せる決議要項中には含まれてをらず、それは四月七日は發表の國民會議派運用委員會決議文に於て詳細に論及されるもの、その事であつた。

是に角四月六日の英印間の空氣は頗る緊張し、國民會議派代表陣は同派の要求に關するイギリス本國戰時内閣の最終的判定を待ち構へてをり、同派運用委員會のうち二三のものはいギリス戰時内閣は同派の要求を拒否するであらうとの見解を下すものすらあつたのだ。

時しも四月五日早朝より開始され日本海軍部隊のインド洋大作戦は六、七兩日も引續きインド洋全域を舞臺に壯烈に展開され、我が海空よりする猛攻撃により、イギリス艦艇、航空基地及び主要都市は猛攻を受け、英國側は多大の損害を被つた。一方イギリス艦隊は我が艦隊の猛攻を察知し早くもインド洋方面からの總退却を開始したので我が海軍部隊はこれに對し總攻撃を敢行した。なほ精銳な白帝國潜水艦も同方面に於て縱橫無盡の活躍派りを發揮した。

右の如く日本海軍部隊によるセイロン島のコロンボ初めベンガル灣沿岸のインド本土要衝の爆撃はいギリスに多大の恐慌を卷起し、英印交歩が暗礁に乗り上げてゐる最中として「復活祭に國民會議派でなく日本軍がイギリスに爆弾の贈物をした」と俄然インドをめぐる文字通りの魚眉の意を告げる軍事情勢が注目の焦點となり、イギリスの

對印交歩は第二義的に見做され、コロンドン各報は「インド戰開始せる」と大々的に報道し、「今回の日本軍の攻撃がインド人に與へる影響は甚大である、インドは英國を保護者として防衛に協力せねばならない、インドには高級作戦指導者がゐないからウエーグエルの如き軍事経験に富む指導者が必要である」と政府ワエーグエルをインドに押しつけるべく宣傳に攻むるものがあつた。

更にイギリスにあつてはコロンボは東亞と西亞とを結ぶ要衝でシンガポールより以上の重要性を持つてゐるとなし、而も今回の日本軍のコロンボ攻撃は日獨兩軍一致の攻勢を齎らすに相違なく、セイロン島は最早アジアのみならず歐洲戦局にも重大關係ある要衝であると恐怖の色を漂はすに至つた。

右の如くイギリス本國の動搖を禁じ得ざる時に於て、國民會議派運用委員會は四月七日午後開會し、同日朝クリップス特使より議長アザッド及びネールに對し提示されたイギリス政府の回答を中心に検討し密議約四時間にしてイギリス政府提案全般に對する同派の最終的見解を決定した。

此の日ネールは「目下のところ國民會議派領袖はクリップスと會見の豫定なし」と新聞記者團に断言したのにも見ても右の決定内容が略々窺知されるものであつた。右の會議派決議文と共に回教徒聯盟の對英決議文も八日中にクリップスの手許に提出された。



(十六) 英印會談の難局と米國の焦躁

印度に於ける第三の有力團體たる三派、即ちヒンヅ・マハサバ派及びインド國民聯盟並に回教徒團體アーミア派は悉くクリップス案拒絶の旨を顯明した。

ヒンヅ・マハサバ派副總裁ムーンジ博士はクリップス案を非難すると共に米國大統領ルーズヴェルト宛電報を發し、「インド國民が統一されたる國民でなかつたに現在でも統一されたるのではないと云ふのは當らない、英案は英國自身の利益にとつても有害である、何んとなれば英國案は英帝國の戰爭努力に貢献せしめるためインド國民を動員するよりは寧ろインド國民の關心及び努力を國內問題に集中せしめたる結果となるからである」と述べてゐる。

更にインド國民聯盟委員會はクリップスに書翰を送り、「英國案がインドを分割せんとしてゐるのはインドが一つの結合した國民であること云ふ事實を看過したものである、インドの防備は如何なることがあつてもインド人の手に委せられなければならない」と指摘してクリップス案を拒絶してゐる。

また回教徒團體アーマジア派の領袖ズラット・ミルザバハルジンは「英國案はインド回教徒の正當な權利を剝奪するものである」との主旨で抗議的聲明を行つてゐる。

以上の如き情勢下における一面、無敵皇軍の印度洋制壓は遂に大英帝國の心臓部たるインド本土の連繫となつたので首府ニューデリーの英印會談は息詰る折衝のうちには

よいよ最後の段階に達せんとし、米英の焦慮狂奔振り付世界耳目を惹きよるに至つた。英印交渉は最後の土壇場になつたが、英國内閣はインド國防問題についてインド國民會議派側の要求に若干の讓歩をなそうと云ふ色を見せた。併し「戰略の決定及びその實際の作戦指導を除いて他の國防に關する總ての權限を確保しよう」とする國民會議派の要求を拒否するの態度を決したものと見られた。

印度の國防相問題も、ネールを國防相に任命する代りに回教徒の指導者シンナーを倫敦または華盛頓に於ける軍事委員會委員に任命すれば解決されるのではないかとの見方もあつたが、英國戰時内閣はインド各派が承認し得る國防大臣の選出がヒンヅ・回教徒派と回教徒派との對立で困難であるとの見地から取り止めにした。英國首相チャーチルは國防問題につき英内閣と連絡をとることを條件としてクリップスに相當廣範の自由裁量權を與へたと解されたが、國民會議派が國防に關する自主權要求を放棄し、英内閣が承認せんとしてゐる條件附讓歩で満足しない以上、クリップスの使命達成は先づ覺悟なしと見られたのである。

クリップスは、四月七日國民會議派領袖連を招致して國防問題に對する英國戰時内閣の回答を交付した。併し英國の回答は大体に於て妥協的でなく、従つて事態はアメリカの干渉なくしては解決されないのであらうとの見解が重要視された。

ルーズヴェルトは去る二月廿三日の遠達電報でインド問題にも觸れ「我々聯合國は戰後の平和回復後に於ける世界の新秩序の原則につきある種の意見の一致を見てゐる。



即ちアトランティック・チャーター（大西洋憲章）は大西洋のみにてなく世界の諸地域に適用されるのであるが、その原則は世界の行戦國の武装解除と各國民の自決権確立並に言論宗教に對する壓迫よりの解放とその自由確保がそれである」と説いてゐた。此のやうにルーズヴェルトが大西洋憲章を世界の全地域に適用すると述べ、更に各國民の自決権を確認すると云つたことはアメリカではルーズヴェルトが既にインド問題につき確固たる見解を有する證左であると思はれる。其の翌二十四日ルーズヴェルトが新聞記者團との定例會見で此の點について質問を受けたが、新聞記者のインド問題に關する追及に對し、「現在最も必要なことは戦争に勝つことだ。原則は既に大西洋憲章が明確に述べてゐる。各國の國境とか、また来るべき國家組織の問題は此の原則に基いて戦後解決されるであらう」と述べてゐるのである。

其の時ルーズヴェルトは大西洋憲章の諸原則が特にインドに適用されるか否かについて答を避けたがワシントンの新聞記者團の多くはルーズヴェルトは大体に於て二月二十三日蔣介石が印度を訪問し、インド各派と協議の後には於て「イギリスは印度の諸大派が戦争に對する精神的、物質的力を自ら強化するため印度に出来るだけ早く實際の政治的力を與ふべきである」と述べたのを支持してゐると解してゐると報道されてゐる。其の後アメリカは太平洋戦争に於けるインド問題に急速なる解決の必要を痛感して同地に於ける實際の情勢を直接検討するため公使の資格を特に與へ、前陸軍次官ジヨンソン大佐をルーズヴェルトの私設代表として印度に特派したのみでなく、

印度の軍需工業動員に協力するため多数の工場技術者より成る使節團を派遣したのである。

斯くの如くアメリカ政府は戦局の將來に對する印度問題の急速なる解決の必要を痛感し、間接的にその解決につきイギリスを援助しようとしてゐる。併しクリップスの印度各派との折衝が着しく難局に直面しつつあつた際、ワシントンでは相當焦燥の念に驅られてゐたことは、當時ルーズヴェルトの印度問題調停説が出たことより推して其の間の消息が窺はれる。

ルーズヴェルトにしてもチャーチルにしても、利用し得るあらゆる諸國を動員せしめようと焦慮してゐるのであるから、蔣介石が印度に乗り込んで如何にも尤もらしいことを云つて印度の指導者を誘引しようとしたのに對し、それを支持する態度にルーズヴェルトが出てゐる。それは自派陣營即ち聯合國側の勢力を盛り返すためにする手段に過ぎない。故にそれを以て印度の眞の獨立に如何程の熱意を持つてゐるかはイギリスと五十歩百歩と云ふの外はないであらう。

### (2) 英側の印度國民會議派誹謗

印度問題に對するイギリスの修正案は再び印度側の拒絶に遭ひ、英印交渉は事實上決裂の運命に傾するに至つた。時恰も日本軍は印度洋上にて海上制覇を目ざしてゐる。



さしき活躍を續け、一方印度大陸に對して爆撃の火蓋を切つたので、イギリスの狼狽はその極に達し、イギリスが企圖した對日戦に對する英印共同歩調は遂に一場の夢と化し去らんとしてゐる。印度人方面の大東亞戦に對する態度は未だ判然しないが、ガンジーは先般非戦論の建前から存りに大東亞戦に介入することに反對して中立論持を主張して居り、ネール一派の國民會議派の多数は此の際インドが積極的に對日戦に介入することには反對だが、印度が外敵によつて侵襲される場合は防衛の意味に於て戦はねばならぬとの見解を持してゐると傳へらる。

さきに東條首相が發表した對インド聲明に對する印度側の反響は未だ判然しないが、現状から見て印度の態度は國內的に判然と決定し難いのが事實であらうとせらる。

即ち國民會議派を中心とする印度の大勢は一面對英抵抗、一面對日抵抗と云ふ頗る複雑した情勢を展開するものと見られてゐる。此の間、アメリカは印度の空軍に虎視眈々としてジョーンソンが存りに暗躍してゐるが事態が斯くなつた上は、ルーズヴェルトの調停説などは一片の宣傳に過ぎない。否、寧ろアメリカは英印交渉が分裂し印度に日本の進撃が發展せんとする情勢を利用して印度から物資獲得の機會を掴まんとする狡猾な立廻りを演ずべく策謀をめぐらしてゐる。要するに英印交渉が分裂し、一方、印度とはイギリス帝國分裂の最後の段階にさしかかつた兆と見て差支へなく、一方、印度が我が方の大東亞建設の真意を諒解せず徒らに外敵侵入と云ふが如き英米側の宣傳に

迷はさ小く戦争参加の姿勢を取るが如きことありは、これこそ印度そのもの、自衛を意味することになる。萬一英印交渉が分裂した場合その後の印度は大東亞國に投ずるか、米英の奴隷となるかの歧路に立つに至る。國民會議派は英米の齟齬からも脱し、他の攻撃にも抵抗すると云つてゐるが、斯くの如き國民會議派の意をさしらぬ態度こそは今後の印度問題を益々複雑にする原因となるであらう。

- 一、印度は英戦時内閣並に華盛頓太平洋軍事會議に代表を送りニューデリーに於ける國防相は印度人が兼任する
  - 二、ウエーヴエルはインド軍總司令官として用兵に當るが、印度國防相は國內の政治的權力を掌握する
  - 三、印度政府の前途に關してはニューデリーに所在する中央政府は少くとも十年以内に國內の全王領も各州も中央政府に代表を送つて國政に關與せしめるが、期限満了後は印度は完全なる統一國家として其の自由と獨立とを保持し國土の分裂も離反も承服しない
- さきに印度を訪問し印度を驅り立て、抗日陣營に引き入らるべく策謀を取へてせる



蔣介石は、叙上の如く英印交渉の前途に重大危機が傳へられてゐる折柄、彼は商震、王耀志らの重慶首脳部と協議の結果イギリス遣印特使クリップスと印度國民會議派領袖袖ホーレルとに對し交渉妥結に努力するやう打電した。それと同時に在重慶の英印兩國代表に重要書類を手交して本國に傳達方を要請し、更に駐英米國大使に訓電を發して英國はインドに讓歩するやう、またアメリカは印度の自治権を保障するやうに努力を提議したと云はれた。

これらは印度の向背が英國の死活問題であるのみならず重慶に取つても今度の抗戰力策に決定的に影響を與へる關係上當然の動向と見られた。またビルマ戦線の緊迫に伴つて米國派遣スチルウェル中將は三月末重慶に赴き蔣介石に對し、イギリス、ヒツマ軍司令官アレキサンダー中將の要求として重慶側が引続き増援部隊を派遣することを要請、その代償としてビルマ派遣重慶軍の整備を改善し重慶イギリス兩軍間の幹線、兵站管理組織などを確立するとの條件で話を進めてゐると傳へられるほど、依然たる米英蔣陣營の魚珠環りを展開したのである。

また元インド總督として印度の事情に通じてゐる駐米英大使ハリファックスは四月七日夜紐約市公會堂に於ける演説に於て印度問題に言及し、國民會議派を諷刺して次の如き言辭を弄したことは、イギリス側の印度に對する一種の見方として摘記することにしよう。

インドの指導者は英政府の提案により與へられた自治の機會をも拒否しようとして

ある。若し印度に對する吾々の最善の努力が失敗に歸したならば、英國は印度既成政黨各派の大部分の協力を得ることなく全く獨力で断乎その使命に邁進せざるを得なくなるであらう。國民會議派については吾々は今日まで何ら彼らの協力を得た例はない。然し國民會議派の如きも印度人全部に比較すればその極小部分に過ぎないのである。自黨のみが全インドを代表すると云ふ國民會議派の主張は九千箇の回教徒及び印度教徒の大部分を含む印度民衆の半数により否定されてゐるのである。更に諸王侯國も容易に國民會議派の笛に踊らざることはないであらう。若し印度人指導者達が此の重要問題に對し無責任な行動を取れば、印度は今次の戦争で統一なき國民が味はつたと同様な悲運を味はうであらう。

イギリス側としてはおかつた見解を只獨立に希ぐ印度民衆に下すことも出来ないであらう。併し印度にして見れば前大戦に欺瞞せられた苦い經驗をもつてゐるのであるから、今次の千載一遇の好機を失へば再び獨立の機會を掴むことは出来ないであらう。の鬼方が先立つのである。印度の指導を以て任ずる國民會議派の長老ガンジー、領袖ネール、議長アザドらは此の天與の好機を逸しては四億の印度國民に申譯が立たぬであらう。

### (六) 英の讓歩點と印度側の交渉限界點



ニューデリーに於ける英印會談は正に決裂の一步前にまで押詰められた。然るに一方インド部隊に於ては混亂状態の發生が豫想と小るに至った時、即ち四月八日午後に至り突如として新解決方式なるものが現れた。それは(一)印度國防統轄移譲(二)印度自治政府樹立に關する妥協案、の二項目を規定せるもので、クリップス並に國民會議派領袖も双方に取つて受諾し得るものと傳へられたのである。此の新解決方式に對して國民會議派運用委員會は入口の午前、午後には亘つて検討した後、更に九日も審議を續行した。

他方回教徒聯盟運用委員會も入口夜ジナー總裁から右解決方式を附議と小直に検討を開始した。

斯くて英印會談は新しき段階或は最後の段階に入ったと見られるが、此の局面轉換に當つて最も注目すべきは次の二點と見られた。

一、ルーズヴェルトの特使ジョーンソンの活躍である、入口國民會議派運用委員會が新解決方式を検討中であるを發表したのは實に此のジョーンソンであつた。フンントン方面では英印會談に對するルーズヴェルトの調停介入説について沈黙を守つてゐるが、ニューデリーに於けるジョーンソンの活動は活目すべきものがあり、入口午後會議派領袖ネールと一時間近く亘つて會談した後、クリップスとも會ひ、小直に一時間も協議した。また印度國防権の問題について具體的な妥協案を提示したのもジョーンソンである云はれた。

二、次は回教徒聯盟の端倪すべからざる動向である。回教徒聯盟は當初からパルクスタン(清浄なる國土)實現を主張し續け、印度分割による回教徒の獨立を要求して來たのであるが、入口も回教徒聯盟運用委員會はイギリス政府提案拒絶理由として印度の全體的統一に重點を置き、「印度の團結、獨立及び統一が印度民衆特に回教徒の福祉に取つて根本的に必要である」と聲明し、パルクスタン主張については一言も觸れなかつたことである。

何れにしても會議派、回教徒聯盟の二大黨派が依然としてクリップスとの折衝を續けてゐた事實は、結局全面的決裂を回避すべく何らかの妥協に到達しようとしてゐたことを示唆するものであつた。

一方、英印間の紛糾を策動しつつある米大統領特使ジョーンソンはルーズヴェルトの意をうけ、「米國の對印関心を印度各界に宣傳するため米國が對印經濟援助を行ふべきことを保障し、且つ印度工業を助長すべく米國資本が待機してゐる」旨を公表する権限を與へられたと傳へられた。

此は正しく資本によつて印度工業家の関心を誘引しようとする魂膽である。斯くて印度民衆の心理状態を米國側に引き寄せようとすることは、結局英印會談を自派陣營即ち米英側に有利に轉換しようとする策動に他ならない。

國民會議派の實権者ネールは四月九日夜強硬聲明を發表してアメリカの對印干渉に關し痛烈な非難を浴びせた。此はニューデリーに於けるアメリカの特使ジョーンソンの



治權が最高權に達し、アメリカ側放送によればジョンソン自身が英印妥協案を提出したと傳へらる折柄とて極めて重大視された。その聲明の要旨は次の如くである。

米國の對印干渉をネール爾烈に反響聲明

インドはアメリカ大統領ルーズヴェルトに對し、印度問題に干渉するやう要請したことは嘗てない。余はアメリカに對しては多大の尊敬の念を拂ふものであるが、アメリカから來るおためごかしの忠告は拒絶する。此らの忠告は時として威嚇的調子を帯びてさへある。吾々はルーズヴェルトの干渉を求めたこともなければその他如何なる人にも訴へたり干渉を求めたりしたことはない。吾々の負擔は吾々自身のものであり、吾々自身が此れを背負はなければならぬと云ふことを十分知つてゐる。吾々は如何なることが起きようとも毅然として此れに立ち向ふものである。

此のネールの聲明直前即ち四月九日印度洋作戦中の帝國海軍部隊はセイロン島ツリニコマリ方面に於て英航空母艦ハリスミス及びニ巡洋艦を撃沈したのである。

此の快報がドイツに傳はるや十日午後一時君が代を前奏としてドイツのラジオで莊重に特別放送され、敵艦を見つければ必ず殲滅するとの日本軍の定評はこれによつて愈々確固たるものとなり、日本海軍のインド洋制霸近しとの印象を遠人一般に與へてゐると報道された。更に此の明白なる日本軍の勝利は成行を注目してゐる英印交渉に對して放つた巨砲でもあり、殊に印度人として此の「日本の事實を以て示す威力により英國に如何なる反動を見せるか」と云ふことに對し非常に注目を感じたのである。

幾度も危機を傳へらるてゐた英印會談は英政府提案をめぐつて混沌たる状態を續けて来たがル大統領ジョンソンの介入によつて會談の最大難問たる國防統轄權委讓問題が妥結の曙光が認められることになつた。即ちクリップスは其の原案より相當讓歩して印度國民政府將立の件に關しては現在ニューデリーに代表を送つてゐる。印度憲政黨の領袖をも右國民政府に参加せしむべき旨を提議したのである。

右の新提案はマハババ總親サバルカルもこきと同派がクリップス案につき留保條件で此れを承諾したと傳へられ、更にインドを分割して自治州聯盟をつくる餘地を與ふる條項も削除することを提議した。此れはマハババ派がインドの分割に最も強硬に反對した點を參酌されたものと見られるのである。斯くしてイギリス側は或る程度譲歩をしても英印會談を成功に導かじめようと思つてゐることは明かであるが、印度側には交渉の限界がハッキリしてゐるので英國側はそれを認めぬ限り成立の見込みはないものと見られた。

(六) 印度側英國提案を拒絶

國民會議派運用委員會に四月十日クリップスの對印提案を否決する決議文を全會一致で採擇しクリップスの許に此の決議文を提出した。斯く國民會議派運用委員會がク



リップスの提案を拒否するに至った理由としては、運用委員会がクリップスの提案を以て「真の印度人による國民政府の樹立に對する可能性を與へるものではなく、加ふるに印度の國防問題に關してもまた不満足である」との結論に達したからである。而るに印度の國防問題に關してもまた不満足である」との結論に達したからである。而るに至つたためでもある。アザッド議長は運用委員会の英米協案拒否決定に關し十一日夜「委員會は討議中全員一心一体の態度を示し決議も満場一致で可決したのである」と語つた。

英連印特使クリップスは四月十一日午前記者團と會見して國民會議派が遂にイギリス新提案を拒否した旨を発表すると同時に次の如く言明した。

余の提案に對する國民會議派の拒否回答並に既に余の手許に達した他派の回答に鑑み余は本國政府にその對印提案を撤回するやう勸告した。従つて事態は余が訪印に旅立つ以前の狀態に還元したのである。

右のクリップスの言明を裏書きするやうに十一日正午倫敦のラジオ放送は次の如く放送した。

英國政府はクリップス特使によりインド側に提示された提案を遂に撤回するに決し英國政府はインドの英帝國に對する關係は従前の關係に復歸したものと見なすに至つた。

印度自治に關する英連時内閣の修正案はジョーンソン特使の懸命なる斡旋にも拘ら

ず、再び國民會議派の拒絶するところとなり、クリップス連印特使は遂に萬葉齋にて四月十三日歸國と決したが、出發に先立ちクリップスは十一日記者團に對し文書の経過に關し左の如く説明した。

余は現在印度に於ける有力各派全部から回答を受理するに至つた。國民會議派に關する限り文書は停頓狀態に陥つた。即ち國民會議派は十日午後八時（現地時刻）運用委員會としてはイギリス内閣修正案は受諾し難いことが明白となつた文書を以て回答して來た。印度の戰時防衛が遂に遂行されるものであると確信する。印度人に許容された防衛相が防衛する一切の責任を敢と云ふ方法によつて新規の防衛任務を遂行することは出来ぬ。アザッド國民會議派議長の印度國民政府参加拒否に關する回答の要旨は、イギリス内閣の提案によつて印度政府の形態を以てしては同議長の希望する如く印度民衆を奮起せしめることは出来ぬと云ふのである。斯くて余の提出したイギリス戰時内閣の修正案は撤回の餘儀なきに至り、事態は余が印度に來る以前の狀態に立返らざるを得なくなつた。印度國民政府の樹立は印度の頗る錯雜なる制度に手を入らざる限り實現不可能であらう。余は十三日歸國するが情報次第では再び印度に來るかも知れない。

インド國民會議派運用委員會は十日イギリスの提案拒否の決議文を採擇したが、十一日午前右決議内容を左の如く發表した。

國民會議派の英提案拒否の決議文内容



英政府の讓歩案にある如き印度の責任なるものは、印度防衛の責任がインド人に引渡さるべき限り單なる喜劇であり意味なきものである。イギリス案は戦争の繼續中印度に純正なる自由獨立自治政府の樹立を阻止せんとしてある。然しながら何よりも英國の必要とするものは印度人の間に熱情を巻き起すことであるが、これは國防責任が現實に印度人の手中に置かれてこそ始めて可能なのである。

恰も英印會談が難航を續けてゐる時、帝國海軍の電報インド洋作戦と營業的の戦果はインドの民衆に必ずや絶大な反響を巻き起したであらうことは想像に難くない。英印會談の経緯に就ては連日外電が成否兩様の觀測を下してゐるに拘らず、イギリス海軍の休戦とこれに與へた印象についてはニエーデリー初め印度の何處から外電に接せず、イギリス當局が言論報道機關に對し嚴重なる抑壓檢閲を施し極カインド民衆の覺醒と國外への呼びかけを封じてゐるものと見らるるが國民會議派の領袖ネールは十日全インドに聲明を發し、「對クリップス折衝が如何なる結果に終らうとも派閥、種族、宗教を超越して全インド人は各自がその本分を盡さなければならぬ。インドに戦争が始まつても印度民衆は逃げ惑つてはならない。英世や國外に引揚げるには及ばない。海外在住の同胞は印度に歸つて来い、そして國家のために盡して呉れ」と呼びかけた。

右のネールの聲明は印度が焦土戰を絶対排撃するとのガンジー宣言を裏書するもので茲に於てインドの指導層が印度の莫の敵が何處にあるかを洞察直視する絶好の時である。英印會談は最後の段階に入つて妥結成るかには傳へられてゐたが、大詰の土壇場で國民會議派はイギリスの修正提案を全面的に拒否し、またもや難關に逢着したものと、如くである。印度洋上イギリス海空軍の懷減と英印會談の成行に如何なる因果關係があるかは推測の限りではないが、掩いべくもない敗戦事實の前にはイギリスの威信失墜の衝撃は甚大で、赫々たる印度洋海戰の我が大戦果は印度の民衆には世紀の警鐘であり、大英帝國崩壞の序章である。

叙上の國民會議派の英國案拒否の態度決定の報にワシントン政界は全く暗澹たる空氣に包まれ、官廳筋ではニエーデリーからのクリップスの放送を待つて意見を述べることを選り、下院外交委員長ソルブルムなどは危機がインドの扉の外に迫つてゐる今日何らかの妥結に到達せぬ苦はない、儼然と希望の觀測を洩らしたのである。

### (二十) 英印會談全く決裂

さしも世界の注目を惹いた英印會談も、イギリスが物の見事に背負ひ投げを喰さるに形を終了し、倫敦は憂鬱に閉ぢ込められるに至つたが、中でも目立つのは世界人の注目の的となつてゐたクリップスの個落取りである。「完全且つ決定的な失敗」と云ふのが當時の倫敦の一般的な空氣であつた。クリップスが倫敦を出發する前には街頭オーケストラは音高くクリップス敬送の音



樂を榮し到るところクリップスの導き持ち切りで、彼の爲真や傳記や私生活振りと  
が新聞やニエース映画を埋めつくした感があり、正にクリップスは人氣俳優の持て方  
であつた。彼の封印政策を非難することは政府が禁止した位であつた。イギリス國  
民はアメリカ映画の傑作をもじつて「クリップス君さようなら」と彼を敬送した。  
然るに英印會談失敗後はクリップスの立場は人氣俳優から馬の尻に下落した。人々  
は行く時と同様、アメリカ映画をもじつて歸る彼を「クリップス、イギリスへ飛ぶ」  
と嘲笑する有様である。

そこへ日本軍がベンガル灣でイギリス艦隊を撃滅すると同時に、英印交渉を根柢か  
ら崩壊せしめ終つた。英印會談は結局イギリスの弱味を天下に暴露する結果になつた  
に過ぎぬと云ふので英國一流の冷靜寡言な紳士道は全くその力を喪失し英印交渉は全  
く「イギリス崩壊への巨歩」でしかなく「クリップスこそはその最悪な役割を演じた  
仇役であつたのだ」。

元來クリップスの印度政策殊にクリップス自身及び彼の共産主義的政策なるものが  
イギリスに於て風當りの強いものであつた。今度の失敗に對する攻撃の激烈こ  
が彼の歸國前より相當荒立てられた。實際的な傾向の強い印度人との妥協は英國人が  
軍事的にインド人を壓迫することによつてのみ得られたのであつた。英國の對印政策  
も論理歸結は「讓歩」の一語に盡された。

殊に四月十二日ネールは記者團に印度國民會議派の將來の政策を闡明して次の如く

聲明したことは、明かに英國に對する戰爭協力の絶對拒否に外ならぬものがある。

國民會議派は從來通り如何なる戰爭努力にもイギリスと協力することを拒絶するも  
のである。併しインドを脅かす危険に鑑みイギリスやアメリカの戰爭努力を妨害せ  
んとするものではない。印度の自由獨立の立場から會議派は吾々自身の戰爭努力を  
為さんとするものである。

以上の如くイギリスが如何に印度を説いて自派陣營に引き入れようとしても、今日  
の印度はそれに乗る譯のものではない。印度は印度としての國防を感ずるか、イギリ  
スやアメリカのために自國民衆を犠牲にして戰爭することはない。否此の前の第一次  
世界大戰の時に苦汁を吞まされたるにがい経験を忘れるには餘りに苦痛が多かつた。  
四月十二日ニエーステリイを出發、カラチを経て空路倫敦に向つ歸國の途に就いたク  
リップスは、前記の如き險悪なる倫敦の雰圍氣の眞只中に歸還して行つたのである。

(完)



413  
513

『失敗せる英印會談』

定價金貳圓

昭和十七年五月廿五日 印刷  
昭和十七年五月廿七日 發行

兵庫縣芦屋市打出字川西九番地

著作兼 發行人 新田直藏

大阪市東區南久太郎町三丁目四十三番地

印刷人 八木常光

大阪市東區南久太郎町三丁目四十三番地

印刷所 八木謄寫堂

電話船場一八六四番

兵庫縣芦屋市打出字川西九番地

關稅研究所

電話青屋五〇〇七番  
振替大阪六五六九二番

發行所



終

